

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ ١
 الْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ ٢
 الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ ٣ مَلِكِ يَوْمِ الدِّينِ ٤
 إِيَّاكَ نَعْبُدُ وَإِيَّاكَ نَسْتَعِينُ ٥ أَهْدِنَا
 الصِّرَاطَ الْمُسْتَقِيمَ ٦ صِرَاطَ الَّذِينَ أَنْعَمْتَ
 عَلَيْهِمْ غَيْرِ الْمَغْضُوبِ عَلَيْهِمْ
 وَلَا الضَّالِّينَ ٧

1. 開端章(アル・ファーティハ)

マッカ啓示

本章の趣旨:

本章は、人をアッラーへのみ仕えさせることを目的とする。

注釈:

アル・ファーティハ章が「開端章」と呼ばれる所以は、クルアーン最初の章だからである。そこには唯一神への信仰や崇拜などの根幹をなす事項が含まれるため、「クルアーン之母」としても知られ、本章が最も偉大な章であるとされている。

①慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において。ここではアッラーの美名の内の3つが言及される。

1:「アッラー」、つまりアッラーを表す最も特定のな名であり、崇拜に値する唯一の御方。

2:「アッ・ラフマーン」、つまり広大な慈悲を有される、存在自体が慈悲である御方。

3:「アッ・ラヒーム」、つまりその慈悲はどこまでも到達し、かれの御望みになる被造物や、僕の内の信仰者たちに慈悲をかけられる御方。

②あらゆる称賛は比類なきアッラーの荘厳さと完璧さによりもたらされ、かれこそがあらゆる存在を創造された主である。「アール・ミーン」とは「アールム」、つまり「世界」の複数形であり、アッラー以外のあらゆる世界を意味する。

③前節に引き続き、アッラーへの称賛がなされる。

④何者も他者に対し影響を及ぼすことのできない、復活の日における主宰者であるアッラーを尊崇する。「ヤウム・ッディーン(最後の日)」とは、復活の日および審判の日を指す。

⑤私たちは、ただあなたにのみあらゆる種の崇拜を捧げ、あなたに何ものをも並べません。そしてあなたにのみあらゆる状況からのお力添えを乞います。あらゆる善きものはあなたの御手からもたらされ、あなた以外に真の協力者はいません。

⑥私たちに真っ直ぐで正しい道をお示してください。そしてそこに私たちを歩ませ、そこにしっかりと留まれるようお導きください。真っ直ぐな道とは、すなわちイスラームである。

⑦あなたがそのお導きによって祝福された預言者たち、真理にある者たち、殉教した者たち、誠実な者たちと同じ道へ。それらの者たちはいかに善き同伴者だろうか。真理を知りながらもそれに従わなかった、ユダヤ教徒たちのような、あなたのお怒りに触れた者たちの道から、私たちを遠ざけてください。そして真理の探究を怠り、それによる導きも求めなかったキリスト教徒たちのような、迷い去って導かれなかった者たちの道からも、私たちを遠ざけてください。

本諸節の功德:

●アッラーはクルアーンをバスマラ(「慈悲あまねく、慈悲深いアッラーの御名において」のこと)によって開端している。それにより、僕たちの言動をアッラーの助力と成功への祈りによって始めさせている。

●祈りを捧げる際の誠実な僕たちの導きによれば、アッラーを賛美することで始め、それから願い事をするるとよいとされる。

●道から逸れたキリスト教徒のように祈願の対象を誤ること、または真理に基づいた行為を怠り、アッラーの怒りを被ったユダヤ教徒のようにならないよう、ムスリムへ注意を促している。

●本章は、アッラーのみへの真摯な崇拜と、他の何者へでもなく、かれのみへと助けを乞い願うことにより信仰が全うされることを示している。

2. 雌牛章(アル・バカラ)

マディーナ啓示

本章の趣旨:

本章には、地上での唯一の神の代理者としての統治達成、イスラームの確立、アッラーへの服従という命令と、イスラエイルの民の状態に対する警告がある。

注釈:

本章が「雌牛章」と命名された理由は、イスラエイルの民の雌牛についての逸話が言及されるからである。また、アッラーの法を確立させるための苦難を物語り、ユダヤ教徒がしたようにそれを遅延させないよう促している。

①「アリフ・ラーム・ミーム」— クルアーンの一部の章は、このような文字の連なりによって始まっている。それらの文字は単体では何も意味を成さないが、他のすべてのクルアーンの章句同様、重要な英知を宿している。その英知のひとつとして、我々が使い、話している文字によって成り立つクルアーンによる挑戦というものがある。

②それこそは全く疑念の余地なきクルアーンである。その起源や記述、意味についても疑いはない。それこそはアッラーの御言葉であり、そしてアッラーを意識する者たちへの導きである。

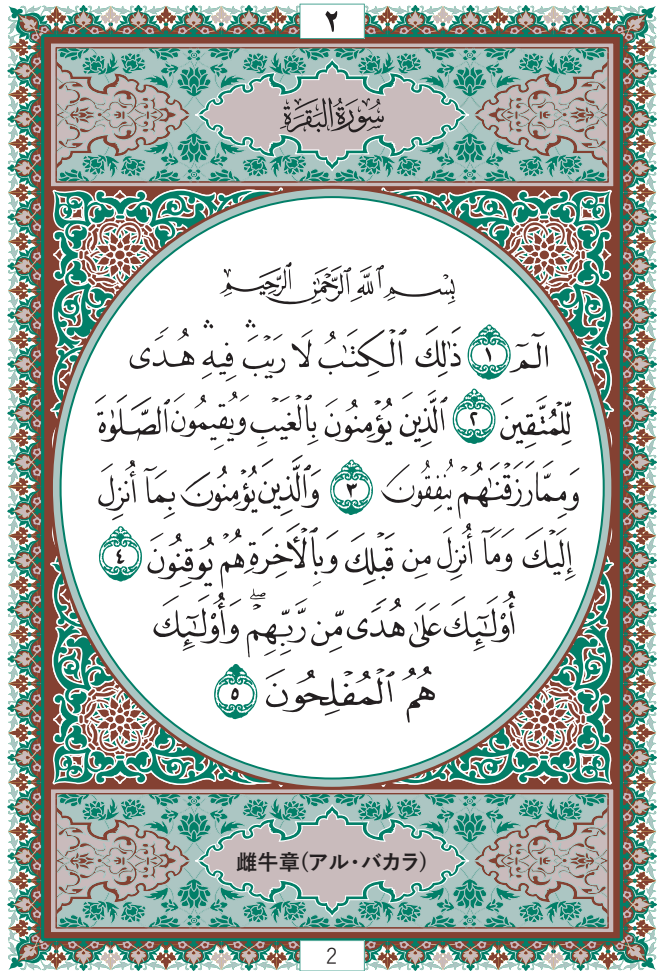
③それらの者たちとは、アッラーとかれの預言者たちが伝えた、来世などの不可視の存在を信じる者たちである。また、アッラーに命じられた通りに礼拝をし、アッラーによって授けられた糧の中から喜捨(義務の「ザカー」、または任意の「サダカ」)として施し、アッラーの報奨を望む者たちである。

④預言者よ、かれらはアッラーがあなたに下した啓示を信じ、同様に過去のすべての預言者たちへの啓示も、分け隔てることなく信じる者たちである。また来世、そしてそこにおける報奨と懲罰を確信する者たちである。

⑤そうした特性を持つ者たちにご導きがあり、現世と来世の双方において成功がある。かれらは望むものを手に入れ、恐れるものから救われる。また、アッラーは表裏共に健全な畏れ深い信仰者の特質について言及した後、表裏共に腐敗した不信仰者についても次に述べる。

本諸節の功德:

- 疑念の否定に対する完全なる自信は、アッラーによるものである。よって、私たち被造物がアッラーの御言葉に対して疑念を呈するのは間違いである。
- 至高なるアッラーを意識し、賛美する者たち以外には、クルアーンによる導きは有益とはならない。
- 不可視の存在を信じることは、信仰上最も大きな位階のひとつである。なぜなら、それはアッラーのみが知り得ること、そしてかれが預言者に啓示したことを受け入れるためである。
- アッラーは礼拝と喜捨を同時に言及されることが多いが、それは礼拝が崇拜される者に対する誠実さであり、喜捨が崇拜する者への親切さであることから、それらが幸福と成功をもたらすものだからである。
- 至高なるアッラーへの信仰心、および善行は、現世における導きと成功だけでなく、来世における勝利と至福をもたらす。



雌牛章(アル・バカラ)

إِنَّ الَّذِينَ كَفَرُوا سَوَاءٌ عَلَيْهِمْ ءَأَنذَرْتَهُمْ أَمْ لَمْ تُنذِرْهُمْ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿٦٦﴾ خَتَمَ اللَّهُ عَلَى قُلُوبِهِمْ وَعَلَى سَمْعِهِمْ وَعَلَى أَبْصَرِهِمْ غِشْوَةً وَلَهُمْ عَذَابٌ عَظِيمٌ ﴿٦٧﴾ وَمِنَ النَّاسِ مَن يَقُولُ ءَامَنَّا بِاللَّهِ وَيَأْتُونَ الْآخِرَ وَمَا هُمْ بِمُؤْمِنِينَ ﴿٦٨﴾ يُخَادِعُونَ اللَّهَ وَالَّذِينَ ءَامَنُوا وَمَا يُخَادِعُونَ إِلَّا أَنفُسَهُمْ وَمَا يَشْعُرُونَ ﴿٦٩﴾ فِي قُلُوبِهِمْ مَّرَضٌ فَزَادَهُمُ اللَّهُ مَرَضًا وَلَهُمْ عَذَابٌ أَلِيمٌ بِمَا كَانُوا يَكْفُرُونَ ﴿٧٠﴾ وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ لَا تُفْسِدُوا فِي الْأَرْضِ قَالُوا إِنَّمَا نَحْنُ مُصْلِحُونَ ﴿٧١﴾ أَلَا إِنَّهُمْ هُمُ الْمُفْسِدُونَ وَلَٰكِن لَّا يَشْعُرُونَ ﴿٧٢﴾ وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ ءَامِنُوا كَمَا ءَامَنَ الْأَوَّلُونَ قَالُوا إِنَّمَا نَحْنُ مُفْسِدُونَ وَلَٰكِن لَّا يَعْلَمُونَ ﴿٧٣﴾ وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ الْآيَاتُ نَزَّلَتْ لِتُبَيِّنَ لِلنَّاسِ مَا هُمْ كَاذِبُونَ قَالُوا إِنَّمَا نَحْنُ مُسْتَهْزَءُونَ ﴿٧٤﴾ اللَّهُ يَسْتَهْزِئُ بِهِمْ وَيَمُدُّهُمْ فِي طُغْيَانِهِمْ يَعْمَهُونَ ﴿٧٥﴾ أُولَٰئِكَ الَّذِينَ اشْتَرُوا الضَّلَالََةَ بِالْهُدَىٰ فَمَا رَبِّحَتِ تَبَدُّرُهُمْ وَمَا كَانُوا مُهْتَدِينَ ﴿٧٦﴾

表裏ともに健全な信者の特徴をアッラーは明らかにされ、表裏ともに腐敗した不信者の一団の特徴を述べたため言われた。

⑥信仰の欠如というアッラーの御言葉が相応しいものとなった人たちは、頑迷なままである。だからあなたが彼らに警告してもしなくても同じである。

⑦アッラーはかれらの心を封じ、その中を虚偽によって満たした。また聴覚も封じ、真理を聞くこともなければ聞こうともしないようにした。また、目に覆いをかけ、真理の明白さを見えないようにした。そして来世では大いなる懲罰を受ける。

表裏共に腐敗した不信者について述べた後、アッラーは外面では健全であるかのように繕っているものの、内面は腐敗している偽信者について述べる。

⑧人々の中には、口先では自分たちが信者であると主張する者たちがいるが、それはかれらが自らの生命や財産の損失を恐れているからである。しかし、かれらの実態は不信者である。

⑨かれらは愚かにも信仰を示して不信を隠すことで自分たちはアッラーと信者たちを騙していると思込んでいるが、かれらにはそれが感じられない。至高のアッラーは密かなこともそれよりさらに隠されたことも知っておられるからであり、信者たちにかれら(偽善者)の特徴や状態をお見せになったのである。

⑩かれらの心に疑念があるのは、アッラーがかれらの心にある疑念の上に、さらなる疑念を付加されたからである。それがかれらによる行いの報いである。アッラー、そして人々に対し嘘付き、ムハンマド(平安と祝福あれ)のもたらした教えを拒絶したかれらには、火獄の最下層における最も熾烈な懲罰が用意されている。

⑪かれらは、地上における不信仰や罪などの腐敗を注意されればそれを否定し、かれらこそが腐敗を正す正義の民であると主張する。

⑫真実としては、かれらこそが腐敗を働く民であるが、かれらはそれを自覚することもできなければ、自らの行いこそが腐敗の元凶であることも認識できない。

⑬かれらはムハンマド(平安と祝福あれ)の教友たちからそうされたように、たとえ信仰を持つよう促されても、反論と嘲笑によって応じ、こう言う。「我々が、知性を欠く者たちのように信仰すべきだと言うのか?」しかし現実には、かれらの知性こそが欠けているのであり、かれらにはそれを知る由もない。

⑭これらの偽信者たちが信者たちに会うと、こう言うだろう。「我々はあなたがたの信じることを信じている。」だが、そう言うのは信者たちに対する恐れによるもので、信者たちから離れると、かれらの指導者たちに対しては従順な姿勢でこう言う。「我々はあなたがたと共にあり、あなたがたに従います。私たちが表向きでは『信じている』と信者たちに言うのは、かれらに対する嘲りに過ぎません。」

⑮信者たちを嘲る不信者たちに対し、アッラーはかれらを嘲る。そしてかれらには、そうした態度に対する相応の報いが与えられる。かれらは現世においては信者として扱われるものの、来世ではその不信仰と虚偽ゆえに罰せられる。かれらは混迷と過ちの中に放任され、真理についての疑いと混乱をより深める。

⑯かれらこそがそうした特徴を持つ偽信者たちであり、信仰を不信仰と取り換えた者たちである。アッラーへの信仰を失ったかれらに取引での儲けがあることはなく、真理へ導かれることもないのである。

本諸節の功德:

- 頑迷さや不信仰によって心を封じられた者たちは、それがいかに偉大なものであれ、アッラーの印から益することはない。
- 不義を犯し、信仰を破棄する者たちをアッラーが放任されるのは、かれらの罪を把握していないからでも、かれらを止めることが出来ないからでもなく、かれらが重ねた罪によって来世の報いを与えるためである。

مَثَلُهُمْ كَمَثَلِ الَّذِي اسْتَوْقَدَ نَارًا فَلَمَّا أَضَاءَتْ مَا حَوْلَهُ
 ذَهَبَ اللَّهُ بِنُورِهِمْ وَتَرَكَهُمْ فِي ظُلُمَاتٍ لَا يُبْصِرُونَ ﴿١٧﴾ صُمُّ
 بُكُمْ عَمَىٰ فَهُمْ لَا يَرْجِعُونَ ﴿١٨﴾ أَوْ كَصَيْبٍ مِّنَ السَّمَاءِ فِيهِ
 ظُلُمَاتٌ وَرَعْدٌ وَبَرْقٌ يَّجْعَلُونَ أَصْبِعَهُمْ فِي آذَانِهِمْ مِّنَ
 الصَّوْعِقِ حَذَرَ الْمَوْتِ وَاللَّهُ مُحِيطٌ بِالْكَافِرِينَ ﴿١٩﴾ يَكَادُ الْبَرْقُ
 يَخْطِفُ أَبْصَرَهُمْ كُلَّمَا أَضَاءَ لَهُمْ مَّشْءًا فِيهِ وَإِذَا أَظْلَمَ عَلَيْهِمْ
 قَامُوا وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ لَذَهَبَ بِسَمْعِهِمْ وَأَبْصَرِهِمْ إِنْ أَلَّ اللَّهُ عَلَىٰ
 كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ ﴿٢٠﴾ يَا أَيُّهَا النَّاسُ اعْبُدُوا رَبَّكُمُ الَّذِي
 خَلَقَكُمْ وَالَّذِينَ مِن قَبْلِكُمْ لَعَلَّكُمْ تَتَّقُونَ ﴿٢١﴾ الَّذِي جَعَلَ لَكُمُ
 الْأَرْضَ فَرَشًا وَالسَّمَاءَ بِنَاءً وَأَنْزَلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَأَخْرَجَ
 بِهِ مِنَ الثَّمَرَاتِ رِزْقًا لَّكُمْ فَلَا تَجْعَلُوا لِلَّهِ أَنْدَادًا وَأَنْتُمْ
 تَعْلَمُونَ ﴿٢٢﴾ وَإِن كُنْتُمْ فِي رَيْبٍ مِّمَّا نَزَّلْنَا عَلَىٰ عَبْدِنَا فَأْتُوا
 بِسُورَةٍ مِّن مِّثْلِهِ ۚ وَادْعُوا شُهَدَاءَكُمْ مِّن دُونِ اللَّهِ إِنْ
 كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٢٣﴾ فَإِن لَّمْ تَفْعَلُوا وَلَنْ تَفْعَلُوا فَاتَّقُوا النَّارَ
 الَّتِي وَقُودُهَا النَّاسُ وَالْحِجَارَةُ ۗ أُعِدَّتْ لِلْكَافِرِينَ ﴿٢٤﴾

17 アッラーは偽信仰者について、二つのたとえを示される。一つは炎、もう一つは水にまつわたたとえである。炎のたとえについては、こうである。かれらは明かりを照らすために炎を灯し、その灯された炎の光が役に立つと思ひ込むものの、炎は消え失せてしまい、煙と闇しかもたらさない。それらの者たちは闇の中に取り残され、見ることも道を探し出すこともできない。

18 かれらは聾者であり、聞くことができず、真理を受け入れることもできない。また、啞者であり、それを語ることもできない。また、盲者であり、真理を見ることができず、過ちを直すことすらできないのである。

19 水のたとえについてはこうである。暗闇のなか、激しい雨と共に雷鳴が鳴り響くと、かれらは恐怖に慄き、死を恐れて耳に指を突っ込む。このようにアッラーは、不信仰者たちを包圍し、かれらは逃亡することもできない。

20 稲妻の明るさは、かれらの視覚を奪わんばかりである。それが閃き、辺りを照らす度にかれらは歩みを進めるが、それが止むと身動きがとれず暗闇のなかに留まる。もしもアッラーがお望みならば、そのあらゆるものに対する絶対的な支配力によってかれらの聴覚も視覚も必ず取り上げられ、戻されることもない。かれらが真理から背き去ったからである。本当にアッラーは、凡てのことに全能であられる。

かれらに対する雨はクルアーン、雷鳴はクルアーンによる警告、稲妻の閃光は真理としてたとえることができる。またかれらが雷鳴によって耳を覆うのは真理から背き去り、それに応じようとしないうのたとえである。偽信仰者はかれら同様、何も役立てられない。炎のたとえにおいて、かれらが受け取るのは闇と煙である。そして水のたとえにおいて、かれらが受け取るのは稲妻と閃光による恐怖と警戒心である。同様に、偽信仰者はイスラームから困難さと厳しさしか見出すことができない。

アッラーは信仰深い者、信仰を拒絶する者、偽信仰者にそれぞれ言及し、かれのみを崇拜するよう次節のように呼びかける。
 21 人々よ、あなたがたの主のみを崇めよ。なぜならかれはあなたがた、そしてあなたがた以前の人々を創造し、あなたがたがかれの命令に従い、禁じることを遠ざけることにより、あなたがたが苦痛から救済されるようにしたためである。

22 かれこそは地上をあなたがたの前に敷物のように延べ広げ、空をあなた方の上に打ち立てたお方である。またかれのお慈悲から、あなたがたへの糧として、種々の果実を実らす雨が降らされる。それゆえ、アッラーのみが崇拜に値すると知りながら、かれに同位の者がいるとみなしてはならない。

23 人々よ、もしクルアーンがムハンマドに啓示されたことを疑うのであれば、同様の章句をひとつでも創ってみよ。そしてもし(その創られた章句で)真実を語っているのなら、あなたがたの援助者と呼んでみよ。

24 もしそうすることができないのなら、いや、絶対にできるはずもないのだが、懲罰に値する人間と、かれらが崇めていた種々の石を燃料とする業火を恐れよ。それは不信仰者のために用意されている。

本諸節の功德:

- アッラーは偽善者たちが最もアッラーを必要とするとき、かれらを放置する。なぜならかれらは偽善を働き、導きを放棄したからである。
- アッラーのみを崇拜すべき最も大きな根拠は、かれが私たちのため、世界のあらゆるものを創造され、それらを私たちが使えるようにしてくださったことである。
- 人間がクルアーンと同様のものを創り出すことができないということは、それが全知全能であるアッラーによる啓示であることの証拠である。

وَبَشِّرِ الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ أَن لَّهُمْ جَنَّاتٌ
تَجْرَى مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ كُلَّمَا رُزِقُوا مِنْهَا مِنْ ثَمَرَةٍ
رِزْقًا قَالُوا هَذَا الَّذِي رُزِقْنَا مِنْ قَبْلُ وَأُتُوا بِهِ مُتَشَابِهًا
وَلَهُمْ فِيهَا أَزْوَاجٌ مُطَهَّرَةٌ وَهُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ﴿٢٥﴾

اللَّهُ لَا يَسْتَحْيِي ۚ أَن يَضْرِبَ مَثَلًا مَّا بَعُوضَةً فَمَا فَوْقَهَا فَأَمَّا
الَّذِينَ ءَامَنُوا فَيَعْلَمُونَ أَنَّهُ الْحَقُّ مِنْ رَبِّهِمْ وَأَمَّا
الَّذِينَ كَفَرُوا فَيَقُولُونَ مَاذَا أَرَادَ اللَّهُ بِهَذَا مَثَلًا
يُضِلُّ بِهِ ۚ كَثِيرًا وَيَهْدِي بِهِ ۚ كَثِيرًا وَمَا يُضِلُّ بِهِ
إِلَّا الْفٰسِقِينَ ﴿٢٦﴾ الَّذِينَ يَنْقُضُونَ عَهْدَ اللَّهِ مِنْ بَعْدِ
مِيثَاقِهِ وَيَقْطَعُونَ مَّا أَمَرَ اللَّهُ بِهِ ۚ أَن يُوصَلَ وَيُفْسِدُونَ
فِي الْأَرْضِ أُولَٰئِكَ هُمُ الْخٰسِرُونَ ﴿٢٧﴾ كَيْفَ
تَكْفُرُونَ بِاللَّهِ وَكُنْتُمْ أَمْوَاتًا فَأَحْيَاكُمْ ثُمَّ يُمَيِّتُكُمْ
ثُمَّ يُحْيِيكُمْ ثُمَّ إِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٢٨﴾ هُوَ الَّذِي خَلَقَ
لَكُمْ مَنَافِ الْأَرْضِ جَمِيعًا ثُمَّ اسْتَوَىٰ إِلَى السَّمَاءِ
فَسَوَّاهُنَّ سَبْعَ سَمَاوَاتٍ وَهُوَ بِكُلِّ شَيْءٍ عَلِيمٌ ﴿٢٩﴾

25) ここまでの警告は不信仰者たちに対してのものであるが、善行に励む信仰者たちへは吉報を伝えるよう、預言者は命じられる。楽園において、かれらの宮殿や木々の下には川が流れ、望むがまま果実を食べる。それらは地上の果実と似通っている為、かれらはこう言及する。「これは以前、私たちが与えられていたものと似ている。」かれらは生前の果物と同様の名と形をしたものを与えられ、それらを認知し欲するが、それらの味わいは異なる。そして楽園において、かれらには純潔な伴侶がつくが、地上の人間が持つような不快な特徴は一切ない。そこでは地上のような儂い幸せとは無縁な、途切れることのない永久なる至福の中にかれらは暮らす。

26) アッラーは御意のまま比喻を用いることを厭われない。それが蚊のような小さなものでも、それ以上のものでも同様である。人間の場合、信仰者と不信仰者ではそれぞれ反応が異なる。信仰者はそうした比喻に英知が宿ることを熟知する一方、不信仰者はなぜアッラーが蚊や蠅、蜘蛛という取るに足らない生物を用いているのかと揶揄(やゆ)し合う。するとアッラーは次のようにお答えになる。そうした比喻には、人間に対する導き、指針、試験といったものが潜んでいる。多くの人間が、こうした比喻によって迷妄に陥るのは、それを熟考しない為であるが、そこから学び取り、導かれる人間もまた多くいる。迷妄に陥る人間は、それに値するからである。かれらは不信仰者たちのように、アッラーに対して従順ではない者たちである。

27) かれらは、アッラーにのみ仕え、過去の使徒たちが伝えていた使徒への信奉といったアッラーとの誓約を反故にする者たちである。そしてアッラーが維持するよう命じた近親との関係を断絶し、地上で不義を働き腐敗を広めようとする者たちである。かれらこそ、この世とあの世での運を損なった者たちなのである。

28) 不信仰者たちよ、あなたがたの置かれし状況は驚愕

すべきものである。自らの存在のなかに、アッラーの偉大なる印が見て取れるにもかかわらず、何故かれの唯一性を否定することができようか。過去、あなたがたは存在すらしていなかったが、生命が与えられた。そしてあなたがたは死に、再び蘇らせられる。そしてやがてかれの元へと戻り、清算を受ける。

29) アッラーこそが、あなた方が役立てられるようにと、河川や木々などの地上のあらゆるものを創った御方である。それからかれは天を7層として創造することを意図した。かれこそは、すべてを知り尽くす御方である。

本諸節の功德:

- 楽園の悦楽においては、いかなる心労も、苦悩の欠片も存在しない。
- アッラーが使う比喻は、導きを望む信仰者にとって有益なものである。
- 真理から逸脱する者たちの最も顕著な特徴は、アッラーとその被造物との約束を破り、アッラーが継続を命じる関係性を断絶し、その行為によって地上で退廃を広めることである。
- イスラームの法が禁じない限りにおいて、あらゆる物事は元来、許可された清浄なものである。アッラーは地上のすべてを創造し、それらを人類に委ねたからである。

30 アッラーは天使たちに対し述べる。「われは地上に人類を置き、人類は繁殖し、われの法の下に暮らす。」天使たちはそれを理解しようとかれに尋ねる。「人類は地上で悪を働き、殺し合います。わたしたち天使が常にあなたの命令に忠実に従い、あなたの偉大さを認め、あなたの御力や完全無欠さを賛美するのにもかかわらず、人間を地上の後継者とする英知は何なのでしょう。」アッラーはその質問にこう答える。「あなた方には分からないだろうが、われこそは人類の創造、そしてかれらを地上における後継者とするに深い英知を持つ。」

31 アッラーはアダム(平安あれ)の立場を明示するため、かれに生き物や物体などのあらゆるものの名前と発音、そして意味を教えた。それからかれは天使たちに、「もしあなたが言うように、あなたの方のほうがこの被造物よりも高德で優れているのなら、それらの名を告げてみよう」と言いながら、それらのものを提示した。

32 あらゆるものがアッラーからもたらされること、そして自らの短所を認知し、かれらは言う。「あなたの判断とイスラームの法は疑いの余地がなく、われら天使にはあなたから授けられた知識しかありません。そしてあなたこそは全知であり、あなたからは何も隠されておらず、あなたは命令と法において最も思慮深い御方です。」

33 そしてアッラーはアダムにこう言う。「それらの名を天使たちに伝えよ。」そしてアダムが天使たちに物事の名を教えられた通りに伝えると、アッラーは天使たちにこう告げる。「われはあなた方に、諸天と地上における一切と、あなたが日常で公にすることもお互いの間で密かに話し合うことも知り尽くしていると告げなかったか。」

34 アダムに敬意を表し、サジダするようアッラーは天使たちに告げる。かれらはアッラーの命令を遵守し、一斉にかれにサジダしたが、もともとジンであったイブリース(悪魔の長)だけは別だった。アダムに対して抱く傲慢さによってアッラーの命令に反し、不信仰者となったのである。

35 また、アッラーはアダムとその妻であるハワワーに告げる。「アダムよ、あなたとあなたの妻は楽園に住むがよい。そしてこの中のどこであれ、思いのままに祝福された朽ちることなき清い食べ物を食べよ。ただし、この木には近づいてはならず、その果実に手を出してはならない。さもなければ、命令に背いて不義を働く者となろう。」

36 シャイターン(悪魔)は二人を欺こうと囁き続け、遂に二人はその巧妙な手口にはめられ、アッラーが禁じた木の果実を食べてしまう。その報いとしてアッラーは二人を楽園から追放し、告げる。「あなた方二人は悪魔(シャイターン)とともに地に墮ちよ。あなた方はお互いに敵である。その住処で最後の時が来るまで留まって寿命を全うし、糧を享受せよ。」

37 アダムはアッラーからの言葉を受け取り、それによって赦しを乞うことを思いついた。その文言は高壁章23節において言及される。「かれら二人は言った、『主よ、わたしたちは誤ちを犯しました。もしあなたの御赦しとお慈悲を受けられないならば、わたしたちは必ず失敗者の仲間になってしまいます。』」アッラーはアダムの悔悟を受け入れ、かれを赦した。アッラーはその被造物に対して最も慈悲深い御方である。

本諸節の功德:

- 私たちはたとえアッラーの被造物やイスラームの法における英知を理解できずとも、そこには知り得ぬ英知が潜んでいるということを確認しなければならぬ。
- クルアーンは知識に対して高い地位を与え、人間の価値の基準とした。
- 傲慢というものは不服従の原因であり、被造物がこうむるあらゆる困難の根源である。それは最初の罪であり、アッラーに対する不服従の原因となった。

وَاذْ قَالَ رَبُّكَ لِلْمَلٰٓئِكَةِ اِنِّيْ جَاعِلٌ فِى الْاَرْضِ خَلِيْفَةً قَالُوْۤا اَنْتَجْعَلُ فِيْهَا مَنْ يَفْسِدُ فِيْهَا وَيَسْفِكُ الدِّمَآءَ وَيَمْنَحُنْ نُسُوْحًا بِحَمْدِكَ وَتُقَدِّسُ لَكَ قَالِ اِنِّيْۤ اَعْلَمُ مَا لَا تَعْلَمُوْنَ ۝۳۰ وَعَلَّمَ اٰدَمَۤاْلْاَسْمَآءَ كُلَّهَا ثُمَّ عَرَضَهُمْ عَلٰى الْمَلٰٓئِكَةِ فَقَالَ اَنْبِئُوْنِىْ بِاَسْمَآءِ هٰٓؤُلَآءِ اِنْ كُنْتُمْ صٰدِقِيْنَ ۝۳۱ قَالُوْا سُبْحٰنَكَ لَا عِلْمَ لَنَاۤ اِلَّاۤ اِلَّا مَا عَلَّمْتَنَا اِنَّكَ اَنْتَ الْعَلِيْمُ الْحَكِيْمُ ۝۳۲ قَالِ يٰۤاٰدَمُ اَنْۢبِئْهُمْ بِاَسْمَآئِهِمْ فَلَمَّآ اَنْۢبَاَهُمْ بِاَسْمَآئِهِمْ قَالَ اَلَمْ اَقُلْ لَّكُمْ اِنِّيْۤ اَعْلَمُ غَيْبَ السَّمٰوٰتِ وَالْاَرْضِ وَاَعْلَمُ مَا تُبْدُوْنَ وَمَا كُنْتُمْ تَكْتُمُوْنَ ۝۳۳ وَاذْ قُلْنَا لِلْمَلٰٓئِكَةِ اسْجُدُوْا لِاٰدَمَ فَسَجَدُوْۤا اِلَّاۤ اِبٰلِيْسَ اَبٰى وَاَسْتَكْبَرَ وَكَانَ مِنَ الْكٰفِرِيْنَ ۝۳۴ وَقُلْنَا يٰۤاٰدَمُ اسْكُنْ اَنْتَ وَزَوْجُكَ الْجَنَّةَ وَكُلَا مِنْهَا رَغَدًا حَيْثُ شِئْتُمَا وَلَا تَقْرَبَا هٰذِهِ الشَّجَرَةَ فَتَكُوْنَا مِنَ الظّٰلِمِيْنَ ۝۳۵ فَاَزَلَّهُمَا الشَّيْطٰنُ عَنْهَا فَاَخْرَجَهُمَا مِمَّا كَانَا فِيْهِ وَقُلْنَا اِهْبُطُوْا بَعْضُكُمْ لِبَعْضٍ عَدُوٌّ وَلَكُمْ فِى الْاَرْضِ مُسْتَقَرٌّ وَمَتَعٌۭ اِلٰى حِيْنَ ۝۳۶ فَتَلَقٰٓى اٰدَمُ مِنْ رَّبِّهٖۤ كَلِمٰتٍ فَتَابَ عَلَيْهِ اِنَّهٗ هُوَ التَّوَّابُ الرَّحِيْمُ ۝۳۷

فَلَمَّا أَهَبُوا مِنْهَا جَمِيعًا فَمَا يَأْتِيَنَّكُمْ مِنِّي هُدًى فَمَن تَبِعَ هُدَايَ فَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿٣٨﴾ وَالَّذِينَ كَفَرُوا وَكَذَّبُوا بِآيَاتِنَا أُولَٰئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ هُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ﴿٣٩﴾

يَبْنَئِي إِسْرَائِيلَ أَذْكَرُوا نِعْمَتِي الَّتِي أَنْعَمْتُ عَلَيْكُمْ وَأَوْفُوا بِعَهْدِي أُوفِ بِعَهْدِكُمْ وَإِيَّيَ فَارْهَبُونَ ﴿٤٠﴾ وَءَامِنُوا بِمَا أَنْزَلْتُ مُصَدِّقًا لِّمَا مَعَكُمْ وَلَا تَكُونُوا أَوَّلَ كَافِرٍ بِهِ ۗ وَلَا تَشْتَرُوا بِآيَاتِي ثَمَنًا قَلِيلًا وَإِيَّيَ فَاتَّقُونَ ﴿٤١﴾ وَلَا تَتَّبِعُوا الْحَقَّ بِالْبَطْلِ وَتَكْتُمُوا الْحَقَّ وَأَنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٤٢﴾ وَأَقِيمُوا الصَّلَاةَ وَءَاتُوا الزَّكَاةَ وَارْكَعُوا مَعَ الرَّاكِعِينَ ﴿٤٣﴾ ۖ أَتَأْمُرُونَ النَّاسَ بِالْبِرِّ وَتَنْسَوْنَ أَنْفُسَكُمْ وَأَنْتُمْ تَتْلُونَ الْكِتَابَ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿٤٤﴾

وَأَسْتَعِينُوا بِالصَّبْرِ وَالصَّلَاةِ وَإِنَّهَا لَكِبْرَةٌ إِلَّا عَلَى الْخَاشِعِينَ ﴿٤٥﴾ الَّذِينَ يَظُنُّونَ أَنَّهُمْ مُلْقَوْنَ بِهِمْ وَأَنْتُمْ إِلَيْهِ رَاجِعُونَ ﴿٤٦﴾

يَبْنَئِي إِسْرَائِيلَ أَذْكَرُوا نِعْمَتِي الَّتِي أَنْعَمْتُ عَلَيْكُمْ وَأَيُّ فَضْلَتِكُمْ عَلَى الْعَالَمِينَ ﴿٤٧﴾ وَأَتَّقُوا يَوْمًا لَا تَجْزِي نَفْسٌ عَنْ نَفْسٍ شَيْئًا وَلَا يَقْبَلُ مِنْهَا شَفَعَةً ۗ وَلَا يُؤْخَذُ مِنْهَا عَدْلٌ وَلَا هُمْ يُبْصَرُونَ ﴿٤٨﴾

الْحِنَةُ

じるよう命じているにもかかわらず、自らは忘れて行わない。あなたがたに知性はないのか。

〔45〕忍耐と礼拝をもって宗教かつその他全般における助けを乞い求めよ。それらはアッラーに届き、かれはあなたがたの困難を取り除き、加護する。本当に礼拝は、主に対して謙虚でない者たちにとっては、実に困難である。

〔46〕謙虚な者は、復活の日に主に会えること、そしてかれのもとに帰り、自らの行いが清算されることを確信している。

〔47〕アッラーの預言者ヤアクブの子孫たちよ、われがあなたがたに授けた宗教かつその他全般の祝福を思い起こせ。そして預言者たちや権力によってその当時の時代、他のあらゆる民よりもあなたがたを優越させたことを。

〔48〕アッラーの命令に従うこと、そして禁じられた物事を捨て去ることによって、復活の日の懲罰から自分自身を守るのだ。その日、いかなる魂も他者を救うことはできず、他者の利益の成就や危害の護りとなるようないかなる執り成しも認められず、たとえ地上を埋め尽くす程の金塊をもってしても償いは受け入れられない。その日、かれらにはいかなる援助者もない。執り成し、償い、援助者もないのであれば、かれらは一体何を頼りにするのか。

本諸節の功德:

- 最も忌まわしい行為のひとつに、他人に善行を勧めながらも自らはその履行を怠ることが挙げられる。
- 忍耐および礼拝は、信仰者の諸事を容易にする最も有効な行為のひとつである。
- 復活の日、誰一人として執り成しや償いによって懲罰から逃れることはできない。かれらの善行だけがかれらに役立つものとなる。

〔38〕われらはかれらに告げた。あなたがたは全員、樂園から地へと落ちよ。そしてわれらが使徒たちを通して導きを下したとき、かれらを信じて従う者たちには、来世において何も恐れることはなく、地上においても悲しむことはない。

〔39〕不信仰者、そしてわれらの印を拒絶する者たちは、業火の居住者となり、そこから出ることは決してない。

〔40〕預言者ヤアクブの子孫よ、アッラーが授けた多くの祝福を思い起こし、それらに感謝せよ。アッラーとの契約を履行し、われとわれの預言者たちを信じ、そしてわれの法を守るのだ。あなたがわれとの契約を履行するなら、われはあなたへの契約を履行し、地上における良い人生と審判の日における良き報奨を約束しよう。われのみを意識し、われの契約を破ってはならない。

〔41〕また、われがムハンマドに下したクルアーンを信じよ。それは律法書(トーラー)が改ざんされる前の状態、つまりアッラーの唯一性とムハンマドの預言者性を保持している。そして不信仰者の先駆けとなってはならない。われの印をわずかな代償や地位で売ってはならない。そしてわれの怒りと懲罰を恐れよ。

〔42〕われが使徒たちに下した真理を、虚偽によって覆い隠してはならない。また、あなたがたの啓典のムハンマドの叙述について、真実を知り、それを確信しているにもかかわらず、隠し通してはならない。

〔43〕礼拝の根幹、義務、そして推奨部分を確立せよ。またアッラーがあなたがたの手中に収めた富の中から喜捨せよ。そしてアッラー、及びムハンマドの共同体の謙虚な者たちに対し謙虚であれ。

〔44〕律法を読み、人々に信仰を持ち善行に励むよう勧めておきながら、アッラーの宗教に従い、預言者たちを信

49 イスラールイールの民(預言者ヤアクーブの子孫)よ、**われら**がフィルアウンの追従者たちからあなたがたを救ったときのことを思い起こすのだ。かれらはあなたがたを弾圧し、あなたがたが滅ぶように男児を虐殺し、女性は生かして従者とし、あなたがたを辱めた。フィルアウンとその追従者たちの弾圧からあなたがたが救われたのは、誰が感謝するかを確かめるための試練だったのだ。

50 また、**われら**が海を分け隔て、そこを通行の容易な乾いた道にしてあなたがたを救い出し、敵であるフィルアウンとその追従者たちを、あなたがたの目前で溺れさせたときのことを思い起こせ。

51 また、**われら**がムーサーと40夜に渡って約束を結び、律法およびその光と導きを啓示した祝福も思い起こすのだ。それにもかかわらず、あなたがたはその期間、仔牛を崇拜し、不義の徒となった。

52 その後、あなたがたは悔悟した為、**かれ**はあなたがたを赦して放免した。あなたがたがアッラーに感謝し、命じられたように**かれ**への崇拜に最善を尽くすためである。

53 また、**われら**がムーサーに律法を与え、それを真理と虚偽の識別とし、導きと迷妄を明確にしたのも、**われら**による祝福である。それは、あなたがたが真理によって正しく導かれるためである。

54 また、仔牛の崇拜に対して赦しを与えたことも、アッラーによる祝福である。ムーサーはあなたがたにこう言った。「あなたがたは、仔牛を神として崇めることで自身を損なった。それゆえ、創造主へと悔悟し、互いを殺めよ(訳者注:偶像を崇める心を殺すとも訳される)。その方が、不信心と共に生き、やがて業火に永久に住むよりは、あなたがたにとって良い。」そうしてあなたがたはアッラーの許可と助けによって悔悟し、**かれ**はそれをお受け入れになった。なぜなら**かれ**こそは、僕を度々赦される御方であり、慈悲深い御方であるからである。

55 また、あなたがたの先祖がムーサーに対し、厚かましくもこう言ったときのことを思い起こすのだ。「私たちはアッラーを眼前にするまで、あなたのことを信じない。」するとあなたがたは、お互いに落雷で死んでいくのを目の当りにした。

56 **われら**はその後、**われ**の祝福に感謝するようにと、あなたがたが死んだ後に生き返らせた。

57 アッラーの祝福の中には、あなたがたが地上を行き交う際、太陽の熱から守る陰をつくる雲がある。また、蜜に似た甘い飲料「マンナ」があり、ウズラに似た良質の肉を持つ小鳥「サルワー」もある。それから**われら**はあなたがたに告げる。**われら**が授けた良きものを食せ。そしてあなたがたの忘恩と不信心は、全く**われら**を損なうことはないが、あなたがたは善行に対する報奨を失い、自らを懲罰へと晒すことによって、自分自身を損なっているに過ぎない。

本諸節の功德:

- イスラールイールの民は多くの恩恵をアッラーから授かったにもかかわらず、傲慢さと頑迷さを深めただけであった。
- 罪深い者に対しても、アッラーの寛容さとお慈悲は行き届くのである。
- 啓示は、真理と虚偽を識別する基準である。

وَإِذْ نَجَّيْنَاكُمْ مِنَ آلِ فِرْعَوْنَ يَسُومُونَكُمْ سُوءَ الْعَذَابِ
يُذَبِّحُونَ أَبْنَاءَكُمْ وَيَسْتَحْيُونَ نِسَاءَكُمْ وَفِي ذَٰلِكُمْ بَلَاءٌ
مِّن رَّبِّكُمْ عَظِيمٌ ﴿٤٩﴾ وَإِذْ فَرَقْنَا بِكُمْ الْبَحْرَ فَأَنْجَيْنَاكُمْ
وَأَغْرَقْنَا آلَ فِرْعَوْنَ وَأَنْتُمْ تَنْظُرُونَ ﴿٥٠﴾ وَإِذْ وَعَدْنَا مُوسَىٰ
أَرْعَبِينَ لِيَلْمَأَنَّاسُوا أَنَّا نَخَذُكُم بِالْعِجْلِ مِنْ بَعْدِهِ وَأَنْتُمْ ظَالِمُونَ
﴿٥١﴾ ثُمَّ عَفَوْنَا عَنْكُمْ مِنْ بَعْدِ ذَٰلِكَ لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ
﴿٥٢﴾ وَإِذْ آتَيْنَا مُوسَىٰ الْكِتَابَ وَالْفُرْقَانَ لَعَلَّكُمْ تَهْتَدُونَ
﴿٥٣﴾ وَإِذْ قَالَ مُوسَىٰ لِقَوْمِهِ يَا قَوْمِ إِنِّي كُنْتُ مِنْكُمْ لَمِثْلَ نَارِ
الْعِجْلِ فَاتَّبِعُوا أَمْرًا بَارِعًا وَأَنِفْسَكُمْ أَنتُمْ كَادِبُونَ
﴿٥٤﴾ فَاتَّبِعُوا أَمْرًا بَارِعًا وَأَنِفْسَكُمْ أَنتُمْ كَادِبُونَ
﴿٥٥﴾ وَإِذْ قُلْتُمْ يَا مُوسَىٰ لَنْ نُؤْمِنَ بِكَ حَتَّىٰ نَرَىٰ اللَّهَ
جَهْرَةً فَأَخَذَتْكُمُ الصَّيْحَةُ وَأَنْتُمْ تَنْظُرُونَ ﴿٥٦﴾ ثُمَّ بَعَثْنَاكُمْ
مِّن بَعْدِ مَوْتِكُمْ لَعَلَّكُمْ تَشْكُرُونَ ﴿٥٧﴾ وَظَلَّلْنَا عَلَيْكُمُ
الْعَمَامَ وَأَنْزَلْنَا عَلَيْكُمُ الْمَنَّاءَ وَالسَّلْوَىٰ كُلًّا مِنْ طَيِّبَاتِ
مَارْرَقِنَاكُمْ وَمَا ظَلَمُونَا وَلَٰكِن كَانُوا أَنفُسَهُمْ يَظْلِمُونَ ﴿٥٨﴾

وَأَذُقْنَا أَدْخُلُوا هَذِهِ الْقَرْيَةَ فَكُلُوا مِنْهَا حَيْثُ شِئْتُمْ
 رَعْدًا وَأَدْخُلُوا الْبَابَ سُجَّدًا وَقُولُوا حِطَّةٌ نَغْفِرْ لَكُمْ
 خَطِيئَتِكُمْ وَسَنَزِيدُ الْمُحْسِنِينَ ﴿٥٨﴾ فَبَدَّلَ الَّذِينَ
 ظَلَمُوا قَوْلًا غَيْرَ الَّذِي قِيلَ لَهُمْ فَأَنْزَلْنَا عَلَى الَّذِينَ ظَلَمُوا
 رِجْزًا مِنْ السَّمَاءِ بِمَا كَانُوا يَفْسُقُونَ ﴿٥٩﴾ وَإِذْ اسْتَسْقَى
 مُوسَى لِقَوْمِهِ فَقُلْنَا اضْرِبْ بِعَصَاكَ الْحَجَرَ فَانْفَجَرَتْ
 مِنْهُ اثْنَتَا عَشْرَةَ عَيْنًا قَدْ عَلِمَ كُلُّ أُنَاسٍ مَشْرَبَهُمْ كَلُوا
 وَأَشْرَبُوا مِنْ رِزْقِ اللَّهِ وَلَا تَعْتَوْا فِي الْأَرْضِ مُفْسِدِينَ ﴿٦٠﴾
 وَإِذْ قُلْتُمْ يَا مُوسَى لَنْ نَصْبِرَ عَلَى طَعَامٍ وَاحِدٍ فَادْعُ لَنَا
 رَبَّكَ يُخْرِجْ لَنَا مِمَّا تُنْبِتُ الْأَرْضُ مِنْ بَقْلِهَا وَقِثَّائِهَا
 وَفُومِهَا وَعَدَسِهَا وَبَصِلَهَا قَالَ أَلَسْتَبَدُّونَ الَّذِي هُوَ
 أَدْنَىٰ بِالَّذِي هُوَ خَيْرٌ أَهَبْطُوا مُصْرًا فَإِنَّ لَكُمْ مِمَّا سَأَلْتُمْ
 وَضُرِبَتْ عَلَيْهِمُ الذَّلَّةُ وَالْمَسْكَنَةُ وَبَاءَ وَبَغَضِبِ مِنَ
 اللَّهِ ذَلِكَ بِأَنَّهُمْ كَانُوا يَكْفُرُونَ بِآيَاتِ اللَّهِ وَيَقْتُلُونَ
 النَّبِيَِّينَ بَعِيرِ الْحَقِّ ذَلِكَ بِمَا عَصَوْا وَكَانُوا يَعْتَدُونَ ﴿٦١﴾

58) また、われらがあなたがたにこう言ったときの祝福を思い起こせ。「エルサレムに入り、そこにある善きものを存分に食べよ。そしてアッラーに対して謙虚に門をくぐり、『主よ、私の罪を取り除いてください。』と言うのだ。われらはあなたがたの祈りを聞き入れ、また善行をする者に対しては、その報奨を増加するだろう。

59) しかし、かれらのなかの不義を行う者たちは、告げられた言葉を勝手に変え、後ずさりしながら入り、「髪の中の粒」と言ってアッラーの命令を冒涇した。不義を行う者たちは法を越え、命令に背いたため、アッラーはかれらに対し、空から懲罰を降らせた。

60) また、われらがあなたがたに与えた祝福を思い起こせ。それはあなたがたが荒野で渇きに襲われ、ムーサーが水を嘆願して主に祈りを捧げたときのこと。かれが杖で岩を打つようアッラーが命じると、そこからあなたがたの支族と同じ数の12の泉が湧き出た。そこから水が噴出すると、アッラーはあなたがたが争い合わないよう、それぞれの支族に飲むべき泉を指定した。また、かれは与えられた恩恵の中から努力や苦労なく飲み食いするよう告げ、地上に腐敗を広めないよう告げた。

61) また、あなたがたが主の祝福を感謝せず、かれが下したマナとサルワーに飽き、一種類の食物では我慢ならないと言った時のことを思い起こせ。あなた方はムーサーに対し、香草、野菜、胡瓜、穀物、レンズ豆、玉葱などの作物をもたらしてくれるようアッラーに嘆願するよう頼んだ。ムーサーはあなた方の頼みを拒否し、言った。「苦労なく飲み食いの出来る、高貴なマナとサルワーよりも劣るものを代わりに求めよというのか。この地からどの町にでも降りていけば、あなたが望むようなものをその土地や市場から見出すことができよう。」欲望に従い、アッラーがかれらのために選んだものから繰り返し背き去った結果、かれらは屈辱と貧困を被る悲惨な状態に陥った。かれらがアッラーの宗教を拒絶し、かれの印

を信じず、預言者たちを不当かつ残酷にも殺害し、アッラーに反逆して逸脱を繰り返していたためである。

本諸節の功德:

- ユダヤ教徒の一派がそうしたように、アッラーの法のテキストを改変した者は、アッラーの懲罰が約束される。
- これらの章句では、アッラーがイスラエイルの民に与えた恩恵の大きさが物語られている。対照的に、かれらの感謝の無さ、頑迷さ、アッラーとかれの法に背き去る様子が浮き彫りにされている。
- これらの章句には、アッラーの道から反逆・逸脱する者に対する厳罰と、かれらの被る屈辱、また敵から受ける支配が記されている。

إِنَّ الَّذِينَ آمَنُوا وَالَّذِينَ هَادُوا وَالصَّالِحِينَ وَالصَّالِحِينَ مَنْ
 آمَنَ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ وَعَمِلَ صَالِحًا فَلَهُمْ أَجْرُهُمْ عِنْدَ
 رَبِّهِمْ وَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿٦٢﴾ وَإِذْ أَخَذْنَا
 مِيثَاقَكُمْ وَرَفَعْنَا فَوْقَكُمُ الطُّورَ خُذُوا مَا آتَيْنَاكُمْ
 بِقُوَّةٍ وَادْكُرُوا مَا فِيهِ لَعَلَّكُمْ تَتَّقُونَ ﴿٦٣﴾ ثُمَّ تَوَلَّيْتُمْ
 مِنْ بَعْدِ ذَلِكَ فَلَوْلَا فَضْلُ اللَّهِ عَلَيْكُمْ وَرَحْمَتُهُ لَكُنْتُمْ مِنَ
 الْخَاسِرِينَ ﴿٦٤﴾ وَلَقَدْ عَلِمْتُمُ الَّذِينَ آتَيْنَاكُمْ الْكِتَابَ أَنْ يَمَسُّوا
 فِيهَا مِنْ يَدَيْهَا وَمَا خَفَىٰهَا وَمَوْعِظَةً لِّلْمُتَّقِينَ ﴿٦٥﴾ وَإِذْ قَالَ
 مُوسَىٰ لِقَوْمِهِ إِنَّ اللَّهَ يَأْمُرُكُمْ أَنْ تَذْبُحُوا بَقَرَةً قَالُوا
 أَتَتَّخِذُنَا هُزُوًا قَالَ أَعُوذُ بِاللَّهِ أَنْ أَكُونَ مِنَ الْجَاهِلِينَ
 ﴿٦٦﴾ قَالُوا ادْعُ لِنَارِكَ يَبِيئَ لَنَا مَا هِيَ قَالَ إِنَّهُ يَقُولُ إِنَّهَا
 بَقَرَةٌ لَا فَارِصٌ وَلَا يَكَرُّ عِوَانٌ يَتَّبِعُ ذَلِكَ فَأَفْعَلُوا مَا
 تَأْمُرُونَ ﴿٦٧﴾ قَالُوا ادْعُ لِنَارِكَ يَبِيئَ لَنَا مَا لَوْنُهَا قَالَ إِنَّهُ
 يَقُولُ إِنَّهَا بَقَرَةٌ صَفْرَاءٌ فَاقِعٌ لَّوْنُهَا تَسُرُّ النَّاظِرِينَ ﴿٦٨﴾

62 ムハンマドの共同体の信仰者たち、またムハンマドの時代に先立つユダヤ教徒、キリスト教徒、サービア教徒(過去の預言者たちに従い、アッラーと来世を信じていた集団)たちには、主による報奨がある。かれらは、来世を恐れることもなければ、地上で起きたことを悲しむこともない。

63 われらがあなたがたと結んだ契約について思い起こせ。それは、アッラーとその預言者たちを信仰せよというものだった。またわれらは、あなたがたの上に山をそびえ立たせてあなたがたを畏れさせ、その契約を破らないように警告した。また、われらは律法を啓示し、それを真摯かつ丁寧に扱い、軽率に扱わないよう命じ、そしてそれを暗記し、それについて熟考するよう命じた。そうすることで、あなたがたはアッラーの懲罰を畏怖するだろう。

64 あなたがたは、厳正な契約を交わしたにもかかわらず、それを破り、反逆した。もしもその逸脱に対するアッラーの寛大な恩恵と、悔悟に対するかれの慈悲深い赦しがなければ、あなたがたはその罪や反逆によって損失者の類となっただろう。

65 あなたがたは、自らの祖先の逸話を知っているか。かれらは禁じられていたにもかかわらず、仕掛けを作り安息日に漁をした。かれらは安息日の前に網を張り、日曜日に収穫した。それゆえ、アッラーは懲罰としてかれらを猿にし、排斥したのである。

66 われらはこの逸脱した村を、周辺の村、そして後世に対し、同様の行いをして懲罰を受けることのないよう、見せしめとした。われらは、それを主を怖れる者たちのための訓戒とした。かれらは、来世における現世での行為の帰結について慎重であり、逸脱に対するアッラーの報いについて重々承知している者たちである。

67 あなたがたの祖先の逸話において、かれらとムーサーとの間に起きたことを思い起こせ。かれらに対してアッラーより、雌牛を屠殺する命令が下されたとかれが伝えた時。かれらはその命令を守ろうとせず、頑迷にもこう言った。「あなたはわたしたちを愚弄するののか?」ムーサーは答えた。「わたしはアッラーについて嘘をつき、人々を嘲笑する人間の一人になることからアッラーのご加護を乞います。」

68 かれらは言った。「一体、わたしたちがどのような雌牛を屠殺すべきなのか、あなたの主に尋ねてくれ。」ムーサーは言った。「アッラーは、老齢でも若齢でもなく、その中間の雌牛であると述べられた。それゆえ、あなた方の主の命令に迅速に従うのだ。」

69 それでもかれらは議論を続け、頑迷であり続けた。そしてムーサーに対し、雌牛の色は何色なのか主に尋ねるよう求めた。ムーサーは言った。「その雌牛は、誰の目にとっても心地よく映る、鮮やかな黄色である。」

本諸節の功德:

●62節で述べられる規定については、預言者ムハンマドの時代以前のものの言及であり、預言者の時代以後、主によって認められる宗教はイスラームのみとなり、それ以外は認められることがない。アッラーはこのように述べている。『イスラーム以外の教えを追求する者は、決して受け入れられない。また来世においては、これらの者は失敗者の類である。』(イムラーン家章85節)

●ときに、アッラーは罪深い者たちに対し、来世よりも先に現世で懲罰を与え、それによって人々への警告とし、かれらがイスラームの法に背くことのないよう喚起する。

●人々がイスラームの法における広汎な諸事を自ら厳しく困難なものにすると、アッラーはかれらに対してそれらを更に厳しく、困難なものとする。

قَالُوا ادْعُ لِنَارِكَ يَبِينُ لَنَا مَا هِيَ إِنْ الْبَقَرَةَ تَشَبَهَ عَلَيْهَا وَإِنَّا
 إِنْ شَاءَ اللَّهُ لَمُهْتَدُونَ ﴿٧٦﴾ قَالَ إِنَّهُ يَقُولُ إِنَّهَا بَقَرَةٌ لَدَلُولٌ
 تُشِيرُ الْأَرْضَ وَلَا تَسْقِي الْحَرْثَ مُسَلَّمَةٌ لَا شِيَةَ فِيهَا قَالُوا
 أَفَلَنْ جِئْتَ بِالْحَقِّ فَذَبَحُوهَا وَمَا كَادُوا يَفْعَلُونَ ﴿٧٧﴾ وَإِذَا
 قَتَلْتُمْ نَفْسًا قَادَرْتُمْ فِيهَا وَاللَّهُ مُخْرِجٌ مِمَّا كُنْتُمْ تَكْتُمُونَ
 ﴿٧٨﴾ فَقُلْنَا اضْرِبُوهُ بِبَعْضِهَا كَذَلِكَ يُحْيِي اللَّهُ الْمَوْتَى وَيُرِيكُمْ
 آيَاتِهِ لَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ﴿٧٩﴾ ثُمَّ قَسَتْ قُلُوبُكُمْ مِنْ بَعْدِ ذَلِكَ
 فَهِيَ كَالْحِجَارَةِ أَوْ أَشَدُّ قَسْوَةً وَإِنَّ مِنَ الْحِجَارَةِ لَمَا يَتَفَجَّرُ
 مِنْهُ الْأَنْهَارُ وَإِنَّ مِنْهَا لَمَاءٌ يَشْقَى فَيَخْرُجُ مِنْهُ الْمَاءُ وَإِنَّ
 مِنْهَا لَمَاءٌ يَهْبِطُ مِنْ خَشْيَةِ اللَّهِ وَمَا اللَّهُ بِغَفِيلٍ عَمَّا تَعْمَلُونَ
 ﴿٨٠﴾ * أَقْطَعْمُونَ أَنْ يُؤْمِنُوا بِالْكَرَمِ وَقَدْ كَانَ فَرِيقٌ مِنْهُمْ
 يَسْمَعُونَ كَلِمَ اللَّهِ ثُمَّ يَلْحِقُونَهُ وَمِنْ بَعْدِ مَا عَقَلُوهُ وَهُمْ
 يَعْلَمُونَ ﴿٨١﴾ وَإِذَا الْقُوَاذِ الْأَشْمَاءُ إِذَا
 خَلَا بَعْضُهُمْ إِلَى بَعْضٍ قَالُوا أَتُحَدِّثُونَهُمْ بِمَا فَتَحَ اللَّهُ
 عَلَيْكُمْ لِيُحَاجُّوكُمْ بِهِ عِنْدَ رَبِّكُمْ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿٨٢﴾

الحزب

出て、また一部は割れてそこから水が噴き出し、地表を流れて人や動物を益する。また一部の岩はアッラーを畏怖し、山から転げ落ちる。ただし、かれらの心はそうではなかった。アッラーはあなたがたの行いを熟知されないことはなく、全知なる御方である。あなたがたはその責任を問われるのだ。

75 信仰者たちよ、かれらの頑迷な真の性質を知りながら、かれらが信仰し、誠実な応対をすると期待してはならない。かれらの学者の団は律法の啓示において、アッラーの言葉を耳にし、その意味を理解していたにもかかわらず、その言葉と意味を捻じ曲げた。そしてかれらは、その犯罪の悪質さを十分に承知していたのだ。

76 かれらユダヤ教徒の言動不一致さと腹黒さは、次の例から理解される。かれらが信仰者たちに会うときは、預言者ムハンマドのアッラーの使徒としての正当性を、律法に基づいて信じると言い張りつつも、かれら同士のときにはそうした発言に関してお互いを責め合い、その発言が預言者ムハンマドの正当性に対する証明として利用されてしまうことを恐れるのであった。

本諸節の功德:

- 一部の人々の心は岩よりも頑なであり、かれらには忠言や思いやりの心も届かないということ。
- アッラーの印がいかに偉大であったとしても、かれらの心がアッラーへの畏怖により従順にならない限り、無益であるということ。
- これらの諸節は、ユダヤ教徒の真の性質を露わにしている。かれらは宗教に対する無頓着さ、捏造や改ざんといった習性を継承することが多い。

70 かれらは頑迷さを止めず、ムーサーに言った。「わたしたちのために、雌牛の特徴について更に詳しく主に祈って教えてもらってくれないか。同じような特徴を持つ雌牛はとでも多く、わたしたちには特定できない。」そうすれば、アッラーが御望みなら、屠殺のための正しい雌牛を見つけるために導かれるだろうとかれらは見込んだ。

71 するとムーサーは言った。「アッラーは述べられた。雌牛は土壤を耕すものでも、畑を灌漑するものでもなく、いかなる不備もないものである。また、黄色以外の色でもない。」するとかれらは言った。「これで、雌牛を特定できる詳細が判明した。」こうしてかれらは、ようやく雌牛を屠殺したものの、かれらの間の議論や頑迷さから、それは中断される寸前であった。

72 また、あなたがたが、あなたがたの内の一人を殺害したときのことを思い起こせ。あなたがたはお互いを責め合い、皆他人のせいにしようとした末、争いを始めた。しかしアッラーは、あなたがたが犯した無実の者に対する殺人について、あなたがたが隠していたことを露わにした。

73 われらはあなたがたに屠殺するよう命じた雌牛の切れ端で殺害された者を打つよう命じた。そうすればアッラーは死者を蘇らせ、誰が殺人を犯したのか殺害された者自身が証言するだろう。かれらはそれに従い、殺害された者は加害者について告げた。この男がアッラーによって生き返らせられたのと同様、死者たちは審判の日、復活させられる。アッラーは人類に対しかれの印を明白にし、それについて熟考し、真の信仰を持つよう促すのである。

74 こうした教訓や信じがたい奇跡の数々にもかかわらず、かれらの心は岩のように頑なとなった。岩でさえ変化するというのに、かれらは決して変わろうとはせず、その心は岩よりも硬いのであった。一部の岩からは川が流れ

أَوْ لَا يَعْمَلُونَ أَنْ اللَّهُ يَعْلَمُ مَا يُسْرُونَ وَمَا يَعْلَمُونَ
 وَمِنْهُمْ أُمِّيُونَ لَا يَعْمَلُونَ الْكِتَابَ إِلَّا أَمَانِي وَإِنْ هُمْ
 إِلَّا يَظُنُّونَ ﴿٧٨﴾ فَوَيْلٌ لِلَّذِينَ يَكْتُمُونَ الْكِتَابَ بِأَيْدِيهِمْ
 ثُمَّ يَقُولُونَ هَذَا مِنْ عِنْدِ اللَّهِ لَيْسَ تَرَوُا بِهِ تَمَنَّا قَلِيلًا
 فَوَيْلٌ لَهُمْ مِمَّا كَتَبَتْ أَيْدِيهِمْ وَوَيْلٌ لَهُمْ مِمَّا يَكْسِبُونَ
 ﴿٧٩﴾ وَقَالُوا لَنْ تَمَسَّنَا النَّارُ إِلَّا أَيَّامًا مَعْدُودَةً قُلْ
 اتَّخَذْتُمْ عِنْدَ اللَّهِ عَهْدًا فَلَنْ يُخْلِفَ اللَّهُ عَهْدَهُ إِنَّهُ
 تَقُولُونَ عَلَى اللَّهِ مَا لَا تَعْلَمُونَ ﴿٨٠﴾ بَلَى مَنْ كَسَبَ سَيِّئَةً
 وَأَحْطَتْ بِهِنَّ خَطِيئَتُهُنَّ وَأَفْأُوتِيكَ أَصْحَابُ النَّارِ هُمْ
 فِيهَا خَالِدُونَ ﴿٨١﴾ وَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ
 أُولَئِكَ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ هُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ﴿٨٢﴾ وَإِذْ أَخَذْنَا
 مِنْ بَنِي إِسْرَائِيلَ عَهْدًا أَنْ لَا تَعْبُدُونَ إِلَّا اللَّهَ وَبِأُولَئِكَ
 أَحْسَنًا وَذِي الْقُرْبَىٰ وَالْيَتَامَىٰ وَالْمَسْكِينِ وَقُولُوا
 لِلنَّاسِ حُسْنًا وَأَقِيمُوا الصَّلَاةَ وَآتُوا الزَّكَاةَ ثُمَّ
 تَوَلَّيْتُمْ إِلَّا قَلِيلًا مِّنْكُمْ وَأَنْتُمْ مُّعْرِضُونَ ﴿٨٣﴾

77 これらのユダヤ教徒たちは、あたかもアッラーがかれらの公にする、もしくは隠す言動を知り得ないかのように振る舞うが、かれはそれを露わにし、暴露するのである。

78 かれらユダヤ教徒の一団は、律法を朗誦することしか知らず、律法の教えを理解してはいない。そしてかれらはその指導者たちから教わった嘘しか知らず、それがアッラーから啓示された律法そのものであるかと思ひ込んですらいる。

79 悲惨さと大いなる災難が、啓典の改ざんに手を染める者たちを待ち受けよう。かれらは、それがアッラーからもたらされたものだと言ひつき、現世における富や地位といったわずかな代償と引き換えに、真理と導きを引き渡した。かれらには、その手が書いたアッラーについての虚偽、そしてそれと引き換えに得た富や地位により、悲惨さと災難が待ち受けることになる。

80 かれらの虚偽の主張として、かれらには火獄の業火が届かず、またそこには数日だけ留まるのだと言う。ムハンマドよ、言うのだ。それはアッラーによる確約であったのか。もしそれがアッラーからの確約であったのなら、かれは決してそれを反故にはしないだろう。あるいは、あなたがたはアッラーについて知りもしない虚偽を嘯(うそぶ)いていたのか。

81 かれらの思惑通りではないのである。アッラーは不信仰の悪に手を染める者、そして不服従の罪を決め込む者たちに対し、火獄の業火における永久の懲罰によって報われる。

82 アッラーと使徒たちを信じ、善行に励む者たちは、樂園に住み、そこで永久に報奨を受ける。

83 イスラエールの民よ、われがあなた方と交わした確かな誓約を思い起こすがよい。アッラーだけを崇め、他には何ものをも配さないこと、両親に孝行し、親族や孤児、貧窮者に尽くすこと、人には良い言葉遣いをし、よいことを勧め、厳しく粗雑でないかたちで悪いことを禁じること、われが命じた通りに礼拝を正しく行うこと、そして受給者として相応しい人たちにわだかまりなく進んで定めぬ施しを払うこと(の誓約を交わしたはずである)。だが、この誓約を交わした後で、誓約を果たし忠実であろうとするアッラーに守られた者を除いては、あなた方はそれを遵守することから背き去ったのである。

本諸節の功德:

- 啓典の民の一部は、アッラーの啓示についての知識を主張するものの、真相は逆であり、かれらの主張は虚妄と無知に基づいたものに過ぎない。
- 最も重大な罪人とは、アッラーと使徒に対して嘘を捏造する者たちである。
- ユダヤ教徒たちは、アッラーとの誓約の偉大さにもかかわらず、背き去った。

وَإِذْ أَخَذْنَا مِيثَاقَكُمْ لَآتِفِكُونَ دِمَاءَكُمْ وَلَا تُخْرِجُونَ
 أَنْفُسَكُمْ مِنْ دِيَارِكُمْ ثُمَّ أَقْرَرْتُمْ وَأَنْتُمْ تَشْهَدُونَ ﴿٨٤﴾
 ثُمَّ أَنْتُمْ هَؤُلَاءِ تَقْتُلُونَ أَنْفُسَكُمْ وَتُخْرِجُونَ فَرِيقًا
 مِنْكُمْ مِنْ دِيَارِهِمْ تَظَاهَرُونَ عَلَيْهِم بِالْإِثْمِ وَالْعُدْوَانِ
 وَإِن يَأْتُوكُمْ أَسْرَى تَفْدُوهُمْ وَهُمْ وَهُوَ مُحَرَّمٌ عَلَيْكُمْ
 إِخْرَاجَهُمْ أَفَتُؤْمِنُونَ بِبَعْضِ الْكِتَابِ وَتُكْفِرُونَ بِبَعْضٍ
 فَمَا جَزَاءُ مَنْ يَفْعَلُ ذَلِكَ مِنْكُمْ إِلَّا خِزْيٌ فِي الْحَيَاةِ
 الدُّنْيَا وَيَوْمَ الْقِيَامَةِ يُرَدُّونَ إِلَى أَشَدِّ الْعَذَابِ وَمَا اللَّهُ
 بِغَافِلٍ عَمَّا تَعْمَلُونَ ﴿٨٥﴾ أُولَئِكَ الَّذِينَ اشْتَرُوا الْحَيَاةَ
 الدُّنْيَا بِالْآخِرَةِ فَلَا يَخَفُ عَنْهُمْ الْعَذَابُ وَلَا هُمْ يُبْصَرُونَ
 ﴿٨٦﴾ وَلَقَدْ آتَيْنَا مُوسَى الْكِتَابَ وَقَفَّيْنَا مِنْ بَعْدِهِ
 بِالرُّسُلِ وَآتَيْنَا عِيسَى ابْنَ مَرْيَمَ الْبَيِّنَاتِ وَأَيَّدْنَاهُ بِرُوحِ
 الْقُدُسِ أَفَكُلَّمَا جَاءَكُمْ رَسُولٌ بِمَا لَا تَهْوَى أَنْفُسُكُمْ
 اسْتَكْبَرْتُمْ فَفَرِيقًا كَذَّبْتُمْ وَفَرِيقًا تَقْتُلُونَ ﴿٨٧﴾ وَقَالُوا قُلُوبُنَا
 غُلْفٌ بَلْ لَعَنَهُمُ اللَّهُ بِكُفْرِهِمْ فَقَلِيلًا مَّا يُؤْمِنُونَ ﴿٨٨﴾

84 アッラーが律法においてあなたがたと交わした誓約を思い起こせ。それはあなたがたがお互いを殺し合うことと、住処からの追放を禁じるものであった。あなたがたは誓約を認め、その有効性の証人となった。

85 その後あなたがたは誓約を破った。あなたがたの内の何人かは他者を殺害し、敵の助けを借りつつかれらの集団を強制的に住処から追放し、不当に侵略を働いた。その一方でかれらが囚人として敵の手から逃れて来たら、かれらを住処から追放することが禁じられていたにもかかわらず、身代金を支払わせ、かれらを敵から捕虜として解放する。捕虜の身代金に関する律法の記述の一部を信じながらも、他を否定する(お互いを殺したり、人々を住処から追放したりすること)のはどういうことか。そのような者たちには、現世における屈辱があり、来世では最も過酷な苦しみがある。アッラーはあなたがたがすることを熟知される。実に、かれは完全に把握しており、あなたがたの責任を問うのである。

86 かれらは、来世と引き換えに現世を買い取り、一時的なものを永遠なものとして望む者たちである。かれらの苦しみは軽減されず、かれらを助ける者は誰一人いない。

87 アッラーはムーサーに律法を与え、他の使徒にも続かせた。かれはマルヤムの息子であるイーサーに、死者を生き返らせ、盲人やらい病の治癒などの、かれがもたらしたものの真理の印を明示し、聖霊である天使ジブリールによって力付けた。イスラエルの民よ、それでもアッラーの使徒があなたの方のもとに来て、あなたの方の私欲に同意しなければ、アッラーの使徒たちを見下し、真理に対して傲慢であるのか。かれらの集団を拒否し、殺すのか。

88 ユダヤ教徒は、自分たちがムハンマドに従わないのは、心が覆われているからであり、かれらへの言葉は、何の心も覆われているからであり、かれらへの言葉は、何の心も覆われているからであり、かれらへの言葉は、何の心も覆われているからであり、かれらへの言葉は、何の心も覆われているからである。

本諸節の功德:

- 最も悪い不信仰の形の一つは、アッラーの啓典の一部を信じ、他の部分を拒否することである。誰であれ、そうした者は自らの欲望を神とした。
- イスラエルの民の中には、頑迷さの結果として自らの欲望に従い、アッラーが啓示したものを改ざんし、現世の威信のために来世を交換した者もいる。
- 被造物に対し、導きとして多くの使徒と啓典を送ったのは、アッラーの祝福と慈悲がゆえである。
- アッラーは導きから背き、その封じられた心によって忠実に従うことを拒絶する者に対し、慈悲を奪うことによって懲罰する。その結果、かれらは真理に導かれず、それに従った行動もできない。

89) クルアーンはアッラーからもたらされた、律法書(トラー)と福音書(インジール)の普遍的な真理の原則と合致する。それが啓示される前、かれらは預言者が遣わされればかれらを信じて追従し、アッラーに並べて他者を崇拜する偶像崇拜者たちに対する勝利がもたらされるだろうと述べていた。しかし実際にクルアーンとムハンマドがかれらのもとに現れたとき、かれらは認識していた記述と真実に反し、かれを信じなかった。アッラーは、かれと預言者を信じない者に災厄をもたらす。

90) かれらが、アッラーとその使徒たちに対する信仰の一部と引き換えに受け入れたことは、どれほど悲惨であることか。かれらはムハンマドに預言とクルアーンが授けられたことから、かれを不当に妬み、アッラーによる啓示を信じず、預言者を拒絶した。ムハンマドを信じなかったために、そして律法をあらかじめ歪めていたために、かれらはアッラーによる度重なる怒りを招いた。審判の日における屈辱的な懲罰は、ムハンマドに与えられた預言を信じなかった者たちに与えられる。

91) アッラーがこのユダヤ教徒の集団に対し、預言者に啓示した真理と導きを信じるように告げたとき、かれらは過去の預言者たちに啓示されたことは信じ、それ以外のことはすべて否定した。ムハンマドに啓示されたクルアーンが真理を述べ、アッラーによって既に啓示されていたことを確証したのにもかかわらず、かれらがもし、啓示を本当に信じていたのならば、クルアーンを信じたはずである。ムハンマドよ、だから尋ねるのだ。もし本当にもたらされたものを信じていたのなら、なぜあなたがたは過去にアッラーの預言者たちを殺したのか、と。

92) また、あなたがたの預言者ムーサーは、明瞭な印をもたらし、かれの主張が真理であることを証明した。しかしその後、ムーサーがかれの主と会いに行ったとき、あなたがたは仔牛を神として祭り上げた。アッラーのみが崇拜に値するにもかかわらず、あなたがたはアッラーと並べて他の神を崇拜するという不義を働いたのである。

93) ムーサーに従うこと、そしてかれが神からもたらされたことを受け入れることについて、あなたがたが神と約束をした時を思い起こすのだ。アッラーはあなたがたの上に山を上げ、あなたがたを驚愕させた。あなたがたの上に山が崩れ落ちてこないよう、あなたがたに送られた啓典をしっかりと抱き、あなたがたに啓示されたものを聞いて、従うように告げた。仔牛への崇拜は、かれらの拒否と忘恩のためにかれらの心を奪った。ムハンマドよ、かれらの信仰が、かれらに命じる行いは悪行である。かれらはアッラーからの命令を信じず、背き去った。もしかれらにほんの僅かでも信仰心があったなら、決して信じることなく背き去ったりはしなかっただろう。

本諸節の功德:

- ユダヤ教徒たちはとても妬み深く、預言者がかれらの一員ではなかったため、アッラーに対して不信仰となり、啓示を拒否した。
- アッラーへの真の信仰を持つことは、アッラーが啓示したすべての啓典と、かれが遣わしたすべての使徒たちを信じることを意味する。
- それが真理であることを知り、証拠が提示されていながらも、真実と導きを捨てることは、最大の過ちの一つである。
- イスラエルの民は、アッラーと多くの約束と誓約を交わしたにもかかわらず、それらを破り、何度も約束をし直した。

وَلَمَّا جَاءَهُمْ كِتَابٌ مِّنْ عِندِ اللَّهِ مُصَدِّقٌ لِّمَا مَعَهُمْ
وَكَانُوا مِنْ قَبْلُ يَسْتَفْتِحُونَ عَلَى الَّذِينَ كَفَرُوا فَلَمَّا
جَاءَهُمْ مَا عَرَفُوا كَفَرُوا بِهِ فَلَعْنَةُ اللَّهِ عَلَى الْكَافِرِينَ
۞۹۱ بِسْمَا أَسْرَوْا بِهِ أَنفُسَهُمْ أَن يَكْفُرُوا بِمَا أَنزَلَ اللَّهُ
بَغْيًا أَنْ يُنَزِّلَ اللَّهُ مِنْ فَضْلِهِ عَلَىٰ مَنْ يَشَاءُ مِنْ عِبَادِهِ
فَبَاءَ وَبِعْضِبِ عَلَىٰ عَضِبٍ وَاللَّكَافِرِينَ عَذَابٌ مُّهِينٌ
۞۹۲ وَإِذْ قِيلَ لَهُمْ ءَامِنُوا بِمَا أَنزَلَ اللَّهُ قَالُوا نَوْءٌ مِّمَّا أَنزَلَ
عَلَيْنَا وَيَكْفُرُونَ بِمَا وَرَاءَهُ وَهُوَ الْحَقُّ مُصَدِّقٌ لِّمَا
مَعَهُمْ قُلْ فَلِمَ تَقْتُلُونَ أَنْبِيَاءَ اللَّهِ مِنْ قَبْلُ إِنْ كُنْتُمْ
مُؤْمِنِينَ ۞۹۳ وَلَقَدْ جَاءَكُمْ مُوسَىٰ بِالْبَيِّنَاتِ ثُمَّ
اتَّخَذْتُمُ الْعِجْلَ مِنْ بَعْدِهِ وَأَنْتُمْ ظَالِمُونَ ۞۹۴ وَإِذْ
أَخَذْنَا مِيثَاقَكُمْ وَرَفَعْنَا فَوْقَكُمُ الطُّورَ خُذُوا
مَاءَ آتَيْنَاكُمْ بِقُوَّةٍ وَأَسْمِعُوا قُلُوبًا لَّا تَسْمَعُونَ وَعَصَيْنَا
وَأَشْرَبُوا فِي قُلُوبِهِمُ الْعِجْلَ بِكُفْرِهِمْ قُلْ بِسْمَا
يَأْمُرُكُمْ بِهِ إِيمَانُكُمْ إِنْ كُنْتُمْ مُؤْمِنِينَ ۞۹۵

قُلْ إِنْ كُنْتُمْ لَكُمْ الدَّارُ الْآخِرَةُ عِنْدَ اللَّهِ خَالِصَةً مِّنْ دُونِ النَّاسِ فَتَمَنَّوْا الْمَوْتَ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿٩٤﴾ وَلَنْ يَتَمَنَّوَهُ أَبَدًا بِمَا قَدَّمْتُمْ أَيْدِيهِمْ وَاللَّهُ عَلِيمٌ بِالظَّالِمِينَ ﴿٩٥﴾ وَلَتَجِدَنَّهُمْ أَحْرَصَ النَّاسِ عَلَى حَيَاتِهِ وَمِنَ الَّذِينَ أَشْرَكُوا يَوَدُّ أَحَدُهُمْ لَوْ يُعَمَّرَ أَلْفَ سَنَةٍ وَمَا هُوَ بِمُرَحِّزٍ بِهِ مِنْ الْعَذَابِ أَنْ يُعَمَّرَ وَاللَّهُ بَصِيرٌ بِمَا يَعْمَلُونَ ﴿٩٦﴾ قُلْ مَنْ كَانَ عَدُوًّا لِجِبْرِيلَ فَإِنَّهُ نَزَّلَهُ عَلَى قَلْبِكَ بِإِذْنِ اللَّهِ مُصَدِّقًا لِّمَا بَيْنَ يَدَيْهِ وَهُدًى وَبُشْرَى لِلْمُؤْمِنِينَ ﴿٩٧﴾ مَنْ كَانَ عَدُوًّا لِلَّهِ وَمَلَائِكَتِهِ وَرُسُلِهِ وَجِبْرِيلَ وَمِيكَالَ فَإِنَّ اللَّهَ عَدُوٌّ لِلْكَافِرِينَ ﴿٩٨﴾ وَلَقَدْ أَنْزَلْنَا إِلَيْكَ آيَاتٍ بَيِّنَاتٍ وَمَا يَكْفُرُ بِهَا إِلَّا الْفَاسِقُونَ ﴿٩٩﴾ أَوْ كَلَّمَا عَاهَدُوا عَهْدًا بَيْنَهُمْ فَرَيقُ مِّنْهُمْ بَلَ أَعْرَجُ لَهُمْ لَّا يُؤْمِنُونَ ﴿١٠٠﴾ وَلَمَّا جَاءَهُمْ رَسُولٌ مِّنْ عِنْدِ اللَّهِ مُصَدِّقٌ لِّمَا مَعَهُمْ نَبَذَ فَرِيقٌ مِّنَ الَّذِينَ أُوتُوا الْكِتَابَ كِتَابَ اللَّهِ وَرَاءَ ظُهُورِهِمْ كَأَنَّهُمْ لَا يَعْمَلُونَ ﴿١٠١﴾

94 預言者よ、言うのだ。ユダヤ教徒たちよ、もし来世の天国があなたがたのためだけにあり、他の人々がそれに入ることができないのなら、死を願ひ、それを求めるべきではないのか。そうすれば、あなたがたはいち早くそこに到達し、現世の心配事から解放されるのではないのか。もしあなたがたが主張することについて、真実を語っているのなら。

95 かれらは決して死を望まない。なぜなら生涯ずっとアッラーを信じず、預言者たちを拒否し、啓典を歪曲したからである。アッラーは、かれら同士と他者に対するかれらの悪行を熟知している。各々は、自ら稼いだものを与えられるのである。

96 預言者よ、あなたにはユダヤ教徒たちが、たとえそれがどんなに悲惨で低俗であっても、命に最も執着することが分かるだろう。かれらはアッラーと並べて他の者を崇拜する偶像崇拜者たちよりも貪欲であり、かれら偶像崇拜者は死後に復活させられること、そして自らの行いに対して責任を問われることを信じていない。かれらは啓典の民であるにもかかわらず、そして復活と審判を信じているにもかかわらず、千年は生き延びたいと願っている。しかし、どれ程長い人生を与えられたとしても、かれらがアッラーの懲罰から遠ざかることはない。アッラーはかれらの行いを見通している。かれらから隠されたものは何もなく、かれらは自らが稼いだものを与えられるのだ。

97 ムハンマドよ、ジブリールは天使たちの中でかれらの敵だと主張するユダヤ教徒たちに、こう言うのだ。誰であれ、ジブリールに敵対する者は、導きから逸脱しているのである。と。ジブリールはアッラーの許しを得て、律法や福音のような、過去にもたらされた啓典を確認しつつ、クルアーンをあなたの心に啓示し、善良への道を示し、アッラーがかれらのために備えた至福の吉報をもたらした。

98 アッラーと天使たち、預言者たち、そして二天使ジブリールとミーカーイールの前に立ちはだかる者は誰であれ、アッラーはそうした不信仰者たちの敵である。アッラーを敵とする者には、明白な敗北が確定する。

99 預言者よ、われらはあなたの預言と啓示の真理を証明する明瞭な印を、あなたに明示した。その明瞭さにもかかわらず、これらの印を拒否する者たちは、アッラーの道を捨て去ったのである。

100 あるユダヤ教徒の集団は、その腐敗した状態により、かれらが交わした約束を破り続けた。そこには、律法が明示していた、ムハンマドの預言についての信仰を持つ義務も含まれていた。かれらの大半は、アッラーの啓示を真に信じることがない。信仰とは、約束を守り、それを敬意と共に履行することが求められるからである。

101 ムハンマドがアッラーの預言者としてかれらのもとに現れ、律法の記述にかれが見合った人物であると判明したとき、かれらの一団は、そのことを示した啓典に背き、愚かにもその真理や導きの恩寵を受けることなく、無頓着にそれを背後へと投げ捨てた。

本諸節の功德:

- 信仰深い者たちは、アッラーとの永遠の至福を願ひ、かれとの謁見を待ち焦がれ、死を恐れることがない。
- これらの諸節は、現世の人生が恥辱と不名誉に溢れても構わない、一部のユダヤ教徒たちの強欲さを示す。
- アッラーに近しい者を敵とする者は、アッラーの敵となる。
- ユダヤ教徒は、手元にある律法書でムハンマド(祝福と平安あれ)の誠実さを知った後でなお、かれが預言者であることに背いた。
- かれの知識からの恩寵を受けない者は無知である。なぜなら、その状態は無知な人間の状態に類似しているからである。

وَاتَّبَعُوا مَا تَتْلُوا الشَّيْطَانُ عَلَىٰ مُلْكٍ سُلَيْمَنَ وَمَا كَفَرَ سُلَيْمَنُ وَلَكِنَّ الشَّيْطَانَ كَفَرُوا يَعْلَمُونَ النَّاسَ السِّحْرَ وَمَا أُنزِلَ عَلَى الْمَلَكَيْنِ بِبَابِلَ هُرُوتَ وَمُرُوتَ وَمَا يَعْلَمَانِ مِنْ أَحَدٍ حَتَّى يَقُولَا إِنَّمَا نَحْنُ فِتْنَةٌ فَلَا تَكْفُرْ فَيَتَعَلَّمُونَ مِنْهُمَا مَا يُفَرِّقُونَ بِهِ بَيْنَ الْمَرْءِ وَزَوْجِهِ وَمَا هُمْ بِضَارِّينَ بِهِ مِنْ أَحَدٍ إِلَّا بِإِذْنِ اللَّهِ وَيَتَعَلَّمُونَ مَا يَضُرُّهُمْ وَلَا يَنْفَعُهُمْ وَلَقَدْ عَلِمُوا لَمَنِ اشْتَرَاهُ مَا لَهُ فِي الْآخِرَةِ مِنْ خَلْقٍ وَلَيْسَ مَا شَرَوْا بِهِ أَنفُسَهُمْ لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ﴿١٧٥﴾ وَلَوْ أَنَّهُمْ ءَامَنُوا وَأَتَّقُوا لَمَثُوبَةٌ مِّنْ عِنْدِ اللَّهِ خَيْرٌ لَّوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ﴿١٧٦﴾ يَا أَيُّهَا الَّذِينَ ءَامَنُوا لَا تَقُولُوا رِعْنَآ وَقُولُوا نُنظَرْنَا وَأَسْمِعُوا لَوْلَا كُفْرِيْنَ عَذَابُ الْآلِيمِ ﴿١٧٧﴾ مَا يَأْتِيكُمُ الْبُرْهَانُ إِلَّا بِالْحَقِّ وَالْحَقُّ يَكْفُرُ بِالنَّاسِ أَكْثَرًا وَأَكْبَرًا ﴿١٧٨﴾ وَمَا يَنْزِلُ عَلَيْكُمْ مِنْ خَيْرٍ مِّن رَّبِّكُمْ وَاللَّهُ يَخْتَصُّ بِرَحْمَتِهِ مَن يَشَاءُ وَاللَّهُ ذُو الْفَضْلِ الْعَظِيمِ ﴿١٧٩﴾

102 かれらはアッラーの道を離れると、代わりに悪魔の主張に従った。預言者スライマーンの王国について、それが魔術によって確立されたと主張し嘘をついた。ユダヤ教徒たちが主張するように、スライマーンは魔術を実践するという不信仰を犯すことはなかった。不信仰者なのは、イラクのバベルの街にある二天使、ハールートとマールートに啓示された魔術を人々に教えた、悪魔の方である。これらの二天使は、誰に対してであれ、魔術は人間への試練であり、それを学ぶことでアッラーに対し忘恩にならないようにと告げることで警告して明らかにしない。うちは、魔術を教えることはなかった。だが、かれらの助言に耳を傾けずに、かれらから魔術を学んだ者は、それによって男と妻をお互い憎ませ、離婚させた。これらの魔術師は、アッラーの許可と意思なくしては、誰一人として損害を与えることができない。かれらは自らを害することを学んだのであり、それが利益をもたらすことはない。

また、このユダヤ教徒の一人は、誰であれアッラーの啓典を魔術と引き換えたとしても、それが来世の役には一切立たないことを知っていた。かれらが魔術のためにアッラーの啓示と法を引き換えに魂を売り払ったことは、いかに罪深いことか。もしかれらが、何が利益をもたらすのかを知っていたなら、恥ずべき行いや明白な逸脱行為をしなかっただろう。

103 ユダヤ教徒たちが本当にアッラーを信じ、律法に従い、反逆しないよう留意していたならば、かれらにとっての報奨は、はるかに良いものであると分かっただろう。

104 アッラーは預言者ムハンマドに対し、信仰者たちが慎重に言葉を選ぶよう促す。預言者に話しかけるときに「私たちの世話をして下さい」を意味する「ラーイナー」とは言わないようにすること。ユダヤ教徒たちは預言者と接する際に言葉を捻じ曲げ、その意味を「愚か」または「邪悪」という悪い意味に捻じ曲げた。それゆえアッラーは、そのような嘲笑を防ぐため、かれらがこのような言葉を使わないよう命じた。そして代わりに、「ウンズルナー」と言うよう指示した。この言葉は否定的な意味を含まず、「私たちを見守ってください」を意味する。疑いなく、アッラーを信仰しない者たちには苦痛に満ちた懲罰が与えられる。

105 啓典の民であれ偶像崇拝者であれ、不信仰者たちは、アッラーによってあなたがたに良いものを下されることを、それがいかなるものであれ好まない。アッラーはその慈悲を通し、預言と啓示と信仰をもって、かれの僕を好まれる。アッラーの恩寵は広大である。被造物の誰しもが、かれからもたらされるもの以外の良きものを得ることはなく、またかれが預言者を遣わし、啓典を啓示したのもその恩寵によるものである。

本諸節の功德:

- ユダヤ教徒たちの中には、アッラーの預言者に対する敬意を欠く者がおり、スライマーンが魔術を遂行したと主張する者がいる。しかしアッラーはスライマーンに対する偽りの主張を取り除いた。
- 魔術は現実であり、それは心と体に影響を与える。それを実践する者は不信仰者であり、死罪に値する。
- 善悪の何であれ、アッラーの知識と許可を抜きには何も起らない。
- イスラーム法の目的とは、害悪につながることの阻止である。したがって、腐敗につながる可能性のある言動は慎まなければならない。
- 恩寵はアッラーの手中にあり、かれは慈悲と英知によってお望みのものを優遇する。

* مَا نَسَخَ مِنْ آيَةٍ أَوْ نُنسِهَا نَأْتِ بِخَيْرٍ مِمَّا أَوْمَرَتْهَا أَلَمْ تَعْلَمْ أَنَّ
 اللَّهَ لَهُ وَمَلِكُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا لَكُمْ مِنْ دُونِ
 اللَّهِ مِنْ وَلِيٍّ وَلَا نَصِيرٍ ﴿١٠٧﴾ أَمْ تَرِيدُونَ أَنْ تَسْأَلُوا رَسُولَكُمْ
 كَمَا سَأَلِ مُوسَىٰ مِنْ قَبْلُ وَمَنْ يَتَّبِعِ الْكُفْرَ بِالْإِيمَانِ
 فَقَدْ ضَلَّ سَوَاءَ السَّبِيلِ ﴿١٠٨﴾ وَكَثِيرٌ مِنْ أَهْلِ الْكِتَابِ
 لَوْ يَرُدُّونَكُمْ مِنْ بَعْدِ إِيمَانِكُمْ كَمَا آتَا حَسَدًا
 مِنْ عِنْدِ أَنْفُسِهِمْ مِنْ بَعْدِ مَا تَبَيَّنَ لَهُمُ الْحَقُّ فَاعْتُوا
 وَأَصْفَحُوا حَتَّىٰ يَأْتِيَ اللَّهُ بِأَمْرٍ ۗ إِنَّ اللَّهَ عَلَىٰ كُلِّ شَيْءٍ
 قَدِيرٌ ﴿١٠٩﴾ وَأَقِيمُوا الصَّلَاةَ وَآتُوا الزَّكَاةَ وَمَا تُقَدِّمُوا
 لِأَنْفُسِكُمْ مِنْ خَيْرٍ تَجِدُوهُ عِنْدَ اللَّهِ ۗ إِنَّ اللَّهَ بِمَا تَعْمَلُونَ
 بَصِيرٌ ﴿١١٠﴾ وَقَالُوا لَنْ يَدْخُلَ الْجَنَّةَ إِلَّا مَنْ كَانَ هُودًا
 أَوْ نَصْرَىٰ تِلْكَ أَمَانِيُّهُمْ قُلْ هَاتُوا بُرْهَانَ كُمْ إِنْ كُنْتُمْ
 صَادِقِينَ ﴿١١١﴾ بَلَىٰ مَنْ أَسْلَمَ وَجْهَهُ لِلَّهِ وَهُوَ مُحْسِنٌ فَلَهُ
 أَجْرُهُ عِنْدَ رَبِّهِ ۗ وَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿١١٢﴾

106 アッラーは、クルアーンから章句や決まり事を取り除き、人々にそれを忘れさせても、遅かれ早かれ、より有益なもの、あるいは似たようなものに置き換えることを明示した。それは、アッラーの英知と知識によって起こされる。預言者よ、あなたが知るように、アッラーは全てを支配する力を持っており、望むがまま動き、望むがまま法を定める。

107 預言者よ、あなたは知っているだろう。天地のすべてがアッラーに属し、かれは望むがまま司るということ。かれは望むがまま僕に指示し、望むがまま法を確立させ、そして望むがままそれを廃することができる。あなたの唯一の庇護者はアッラーであり、あなたを庇護する者はかれであり、災厄からあなたを守る助けはかれの他にない。アッラーは全ての庇護者であり、全てを司っている。

108 信仰者たちよ、あなたがたは預言者に詰問すべきではない。ムーサーの民がムーサーに対し「アッラーをわたしたちに公然と見せてください(婦人章153節)」と言った時のように、啓示に対して抵抗を示したり、議論したりしてはならない。信仰を不信仰と取り換える者は、中庸な正しい道を失ったのである。

109 啓典の民の多くは、その妬みから、あなたがたが預言者が遣わされる前にやっていたような、偶像崇拜に再び戻ることを願っている。そしてかれらにとって、預言者が携えてきたものが神からの真実であることは既に明示されている。信仰者たちよ、神の定めが下されるまで、かれらの行いやその無知、そしてその不徳を許してやるのだ。実に、神の命令と定めは既に下されており、かれらに対してはイスラームへの改宗、または人頭税の支払い、もしくは討伐のいずれかの選択肢が与えられる。神はすべてのものを支配する力を持っており、何者も決してかれに影響を与えることはできない。

110 義務と推奨の礼拝を確立し、かれらの富からザカートをそれに相応しい者に与えよ。死の前に人生で何か良い行いをすれば、かれらにとっての宝となる。審判の日、かれらはその報奨を見出す。アッラーはあなたがたの行いのすべてを見通しており、それに応じてすべての者に報いる。

111 ユダヤ教徒とキリスト教徒はそれぞれ、天国はかれらのためだけにであると主張した。それはかれらの単なる無駄な希望と空想に過ぎない。預言者よ、かれらが真実を述べているのなら、その主張の根拠を提示するよう、告げるのだ。

112 アッラーへ誠実に悔悟し、善を行い、アッラーに仕え、預言者がもたらしたことに従う者は、いかなる集団から来たとしても、みな天国に入るだろう。かれらは主のもので報いを受ける。かれらは来世でかれらを待ち受けることについて何の恐れもなく、現世で起きたことについての悲しみを感じることもない。ユダヤ教徒、キリスト教徒、その他の偶像崇拜者のいずれにもかかわらず、アッラーに服従するということは、預言者ムハンマドの到来後の今となっては、ムスリムになることだけなのである。

本諸節の功德:

- 権威はアッラーのみに属する。かれは、定めと律法を望むがまま変え、かれの英知と知識により、それ以外のものをそのままに残す。
- 啓典の民の多くは、アッラーがムスリムたちに信仰と使徒という恩寵を授けたため、ムスリム国家に嫉妬を感じた。それゆえかれらは、以前と同じように不信仰に戻ることを望んだ。

وَقَالَتِ الْيَهُودُ لَبَسْتَ عَلَى شَيْءٍ وَقَالَتِ النَّصْرَى
 لَبَسْتَ الْيَهُودَ عَلَى شَيْءٍ وَهُمْ يَتْلُونَ الْكِتَابَ كَذَلِكَ
 قَالَ الَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ مِثْلَ قَوْلِهِمْ فَاللَّهُ يَحْكُمُ بَيْنَهُمْ
 يَوْمَ الْقِيَامَةِ فِيمَا كَانُوا فِيهِ يَخْتَلِفُونَ ﴿١١٦﴾ وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّن
 مَنَعَ مَسَاجِدَ اللَّهِ أَنْ يُذْكَرَ فِيهَا اسْمُهُ وَسَعَى فِي خَرَابِهَا
 أُولَئِكَ مَا كَانَ لَهُمْ أَنْ يَدْخُلُوهَا إِلَّا الْخَائِفِينَ لَهُمْ فِي
 الدُّنْيَا خِزْيٌ لَهُمْ فِي الآخِرَةِ عَذَابٌ عَظِيمٌ ﴿١١٧﴾ وَاللَّهُ الْمَشْرِقُ
 وَالْمَغْرِبُ فَأَيُّمَا تَوَلَّوْا فَثَمَّ وَجْهَ اللَّهِ إِنَّ اللَّهَ وَاسِعٌ عَلِيمٌ ﴿١١٨﴾
 وَقَالُوا اتَّخَذَ اللَّهُ وَلَدًا سُبْحَانَ اللَّهِ بَلْ لَّهُ مَا فِي السَّمَوَاتِ
 وَالْأَرْضِ كُلُّ لَّهُ رَقِيبٌ ﴿١١٩﴾ بَدِيعُ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ
 وَإِذَا قَضَىٰ أَمْرًا فَإِنَّمَا يَقُولُ لَهُ وَكُنْ فَيَكُونُ ﴿١٢٠﴾ وَقَالَ
 الَّذِينَ لَا يَعْلَمُونَ لَوْلَا يُكَلِّمُنَا اللَّهُ أَوْ تَأْتِينَا آيَةٌ
 كَذَلِكَ قَالَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ مِثْلَ قَوْلِهِمْ تَشَبَهتْ
 قُلُوبُهُمْ قَدْ بَيَّنَّا الْآيَاتِ لِقَوْمٍ يُوقِنُونَ ﴿١٢١﴾ إِنَّا أَرْسَلْنَاكَ
 بِالْحَقِّ بَشِيرًا وَنَذِيرًا وَلَا تُسْئَلُ عَنْ أَصْحَابِ الْجَحِيمِ ﴿١٢٢﴾

115 ユダヤ教徒は、キリスト教徒が正しい道を行っていないと言ひ、キリスト教徒はユダヤ教徒が正しい道を行っていないと言ったが、双方ともにそれぞれの啓典の中で自らの拒んだものが正しいことを読んでるのである。加えてそこには、全ての預言者を分け隔てなく信じるようにとの命があるが、かれらの様子は多神教徒たちが無知なために全ての使徒を拒絶し、啓示された啓典を拒否した言い分に似ている。そのため、アッラーは復活の日に相違する者たちを裁かれる。その公正な裁きにおいて、その僕たちに、アッラーが啓示したすべてのことを信じなければ成功はないと告げておられるのである。

116 マスジドにおけるアッラーの賛美を止めさせ、礼拝や祈願、クルアーンの読誦を妨げ、そこを破壊し、そこでの崇拜を止めさせようとする者たちよりも重大な悪事を行う者はいない。そこを破壊しようとする者は、畏怖と心を震わせることなくして、アッラーの礼拝の場に立ち入ることはない。かれらは現世においては信仰者の手によって恥と屈辱の人生がもたらされ、来世においては人々をマスジドから遠ざけたことによる大きな懲罰が待ち受ける。

117 アッラーの権威は全世界に届き渡り、僕たちに対し、望むがまま命令する。あなたはどこを向いていても、アッラーを見出すだろう。かれは被造物を取り囲んでいる。かれがエルサレムやカアバに向かうように命じたなら、あなたが祈りの方角を間違うか、それとも方角がよくわからない場合であれ、あらゆる方角はアッラーに属しているため、問題ではない。アッラーの祝福は广大であり、被造物を慈悲で包み込む。かれはかれらの意図とすべての行いを熟知する。

118 アッラーと並べて他者を崇拜するユダヤ教徒たち、キリスト教徒たち、そして偶像崇拜者たちは、アッラーが息子を設けたと主張する。かれはそのようなことから遥かに超越しておられる。なぜなら、かれは被造物を必要とせず、それを必要とする者以外には息子はいないからである。そしてアッラーにこそ天地の支配は属しており、すべての被造物はかれの僕であり、かれへと服従する。かれに栄光あれ！かれらはかれの僕たちであり、かれは望むがままかれらを扱う。

119 アッラーは天地とそこにあるすべてのものの創造主である。被造物の中に、かれと似通うものは一切ない。もしかれが何かを定め、望むのであれば、ただ「有れ」と言うだけで、それは存在する。かれの命令と定めを止められるものは何もない。

120 啓典の民と偶像崇拜者の中の知識なき者たちは、真理に対する抵抗心から、アッラーがかれらに直接話さない理由、あるいはなぜかれらに見ることのできる奇跡がもたらされないのかを尋ねた。不信仰者の共同体は、過去の預言者たちにも同様のことを尋ねていた。異なる時代や場所にいたとしても、かれらの心は不信仰と頑迷さ、愚かさにおいてかれら以前の不信仰者と似通っている。われらは、真理を確信し、それを疑ったり抵抗したりしない者に対し、その印を明示したのである。

121 預言者は疑いの余地なく、真理の教えとともに遣わされた。それは、天国の吉報を信仰者にもたらし、業火の警告を不信仰者にもたらす。預言者はただ、明確な教えを伝達しただけであり、アッラーは預言者を信じなかった地獄の民について、預言者の責任を問うことはない。

本諸節の功德:

- 不信仰はそれ自体が一つの宗教であり、異なる人種や場所においても同様である。かれらは不信仰において同様であり、また何の知識もなしにアッラーについて語る内容も似通っている。
- 最大の過ちを犯す者とは、アッラーの道への追隨を妨げ、善行を望む者を妨害する者たちである。
- アッラーは息子や配偶者を設けるには程遠い存在である。かれは栄光に満ちており、被造物を必要とすることは一切ない。

وَلَنْ تَرْضَىٰ عَنْكَ الْيَهُودُ وَلَا النَّصَارَىٰ حَتَّىٰ تَتَّبِعَ مِلَّتَهُمْ قُلْ
 إِنَّ هُدَىٰ اللَّهِ هُوَ الْهُدَىٰ وَلَئِنِ اتَّبَعْتَ أَهْوَاءَهُمْ بَعْدَ الَّذِي
 جَاءَكَ مِنَ الْعِلْمِ مَا لَكَ مِنَ اللَّهِ مِن وِليٍّ وَلَا نَصِيرٍ ﴿١٢٠﴾ الَّذِينَ
 آتَيْنَاهُمُ الْكِتَابَ يَتْلُونَهُ حَقَّ تِلَاوَتِهِ أُوْلَئِكَ يُؤْمِنُونَ بِهِ وَمَن
 يَكْفُرْ بِهِ فَأُوْلَئِكَ هُمُ الْخَاسِرُونَ ﴿١٢١﴾ يَبْنَىٰ إِسْرَاءَ يَلْ أذْكَرُوا وَعَمَتَىٰ
 الَّتِي أَنْعَمْتَ عَلَيْهِمْ وَأَنىٰ فَضَلْتُمْ كُفْرًا عَلَى الْعَالَمِينَ ﴿١٢٢﴾ وَأَتَّفَقُوا يَوْمًا
 لَا تَجْرَىٰ نَفْسٌ عَن نَّفْسٍ شَيْئًا وَلَا يُقْبَلُ مِنْهَا عَدْلٌ وَلَا تَنفَعُهَا
 شَفَعَةٌ وَلَا هُمْ يُنصَرُونَ ﴿١٢٣﴾ * وَإِذْ ابْتَلَىٰ إِبْرَاهِيمَ رَبُّهُ بِكَلِمَاتٍ
 فَأَتَمَّهُنَّ قَالِ إِنى جَاعِلُكَ لِلنَّاسِ إِمَامًا قَالِ وَمِن ذُرِّيَّتى قَالِ
 لَا يَنَالُ عَهْدى الظَّالِمِينَ ﴿١٢٤﴾ وَإِذْ جَعَلْنَا الْبَيْتَ مَثَابَةً لِّلنَّاسِ
 وَأَمْنَا وَانخِذُوا مِن مَّقَامِ إِبْرَاهِيمَ مُصَلًّى وَعَهِدْنَا إِلَىٰ إِبْرَاهِيمَ
 وَإِسْمَاعِيلَ أَن طَهِّرَا بَيْتِى لِلطَّائِفِينَ وَالْقَائِمِينَ وَالرُّكَّعِ السُّجُودِ
 ﴿١٢٥﴾ وَإِذْ قَالَ إِبْرَاهِيمُ رَبِّ اجْعَلْ هَذَا بَلَدًا آمِنًا وَارْزُقْ أَهْلَهُ
 مِنَ الثَّمَرَاتِ مَنْ ءَامَنَ مِنْهُمْ بِاللَّهِ وَالْيَوْمِ الْآخِرِ قَالَ وَمَن كَفَرَ
 فَأَمَّتَّعُهُ وَقَلِيلًا نُّصْرَتُهُ إِلَىٰ عَذَابٍ نَّارٍ وَيَسَّ الْمَصِيرُ ﴿١٢٦﴾

عَدَابُ النَّارِ

指導者とする約束は、かれの子孫の不義者にまでは及ばないとアッラーは答えた。

﴿125﴾アッラーは、人々の心を **かれ** につなぐ手段として、カアバを人々の拠り所としたことについて述べる。人々はそのから旅立ち、またそこに戻る。また、そこは攻撃を受けることのない、安全な場所としても作られた。アッラーは、かつてイブラーヒームがカアバ建築の際に立った石を、祈りの場とするよう人々に命じた。アッラーは、イブラーヒームとその息子イスマーイールに、そこで崇拜を望む者たちのため、聖なる家(アルバイト・アルハラーム)を汚物と偶像から浄化し、カアバを周回し、礼拝や祈りなどのためにそこに留まるように指示した。

﴿126﴾預言者よ、思い起こすのだ。イブラーヒームが主に祈り、マッカを誰も悪に直面することのない安全な場所とするよう、またそこに住む人々に種々の作物を提供し、アッラーの信仰者たちのために特別な糧とするよう頼んだときを。アッラーは、その不信仰者たちにも現世である程度の享樂をもたらす糧を提供すると述べた。しかし来世においては、業火の懲罰に晒される。それは復活の日、かれらが戻ることになる惨めな場である。

本諸節の功德:

- ユダヤ教徒とキリスト教徒は、ムスリムがかれらに対していかに良い行いをしたとしても、ムスリムがイスラームを放棄し、かれらの誤りに追隨するまでは満足することがない。
- 信仰のリーダーシップは、真理を確信し、アッラーの定めの実行において忍耐強い者たちにのみ与えられる。
- マッカにおけるイブラーヒームの祝福の祈りによって、アッラーはそこを人々のために安全な場所とし、そこに住む人々を豊かに祝福した。

﴿120﴾アッラーは預言者に対し、ユダヤ教徒とキリスト教徒は、預言者がイスラームを離れ、かれらに従うようにならない限りは決して満足しないだろうと語りかける。言うのだ。本当にアッラーの書とその解説こそが真実の導きであり、かれらによって立つ虚偽ではない。そして、明白な真理がもたらされた後、もしあなたやあなたに従う者の誰かがかれらに従うようになってしまえば、アッラーからの保護や助けを見出すことはできないだろう。これは、真理を捨て、虚偽の者たちに従うことの深刻さを明確にするものである。

﴿121﴾クルアーンは、与えられた啓典を知り、それに適切に従う、啓典の民の一人について言及する。かれらはその啓典のなかで、預言者ムハンマドの真実性を指し示す印を見つかる。それゆえ、すぐにかれへの信仰を持つ。一方で別の集団はその不信仰に固執し、それはかれらにとっての損失となる。

﴿122﴾イスラエーイルの民よ、**われ**があなたがたに与えた宗教的な、そして世俗的な祝福を思い起こせ。そして預言と権威をもって、あなたがたの時代の他のいかなる民よりも、あなたがたを支持したことを思い起こすのだ。

﴿123﴾アッラーの指示と禁止に従い、復活の日の懲罰から身を守るのだ。その日、魂は決して別の魂を助けることができないからである。それがどんなに大きなものであれ、代償は受け入れられない。また、立場がいかに高くとも、他者のための訴えは役に立たない。その日、いかなる魂にとっても、アッラー以外の援助者はない。

﴿124﴾アッラーが、イブラーヒームに戒めと義務を遂行するよう命じ、それを試練としたことを思い起こせ。イブラーヒームはその命令に忠実に従った。アッラーは預言者イブラーヒームに対し、態度や行動を人々が追隨すべき模範にするよう告げた。イブラーヒームはアッラーに対し、かれの子孫を人々の指導者としてくれるよう頼んだ。指導者とする約束は、かれの子孫の不義者にまでは及ばないとアッラーは答えた。

وَأَذِيعُ إِبْرَاهِيمَ الْقَوَاعِدَ مِنَ الْبَيْتِ وَإِسْمَاعِيلَ رَبَّنَا تَقَبَّلْ مِنَّا إِنَّكَ أَنْتَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿١٢٧﴾ رَبَّنَا وَاجْعَلْنَا مُسْلِمِينَ لَكَ وَمِنْ ذُرِّيَّتِنَا أُمَّةً مُسْلِمَةً لَكَ وَإِرْنَا مَنَاسِكًا وَتُبَّ عَلَيْنَا إِنَّكَ أَنْتَ التَّوَّابُ الرَّحِيمُ ﴿١٢٨﴾ رَبَّنَا وَابْعَثْ فِيهِمْ رَسُولًا مِنْهُمْ يَتْلُو عَلَيْهِمْ آيَاتِكَ وَيُعَلِّمُهُمُ الْكِتَابَ وَالْحِكْمَةَ وَيُزَكِّيهِمْ إِنَّكَ أَنْتَ الْعَزِيزُ الْحَكِيمُ ﴿١٢٩﴾ وَمَنْ يَرْغَبْ عَنْ مِلَّةِ إِبْرَاهِيمَ إِلَّا مَنْ سَفِهَ نَفْسَهُ وَلَقَدْ اصْطَفَيْنَاهُ فِي الدُّنْيَا وَإِنَّهُ فِي الْآخِرَةِ لَمِنَ الصَّالِحِينَ ﴿١٣٠﴾ إِذْ قَالَ لَهُ رَبُّهُ وَأَسْلِمُ قَالَ أَسَمْتُ لِرَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿١٣١﴾ وَوَضَىٰ بِهَا إِبْرَاهِيمُ بَنِيهِ وَيَعْقُوبَ يَبْنِي إِنْ لَمْ يَكُنْ اللَّهُ اصْطَفَىٰ لَكُمُ الدِّينَ فَلَا تَمُوتُنَّ إِلَّا وَأَنْتُمْ مُسْلِمُونَ ﴿١٣٢﴾ أَمْ كُنْتُمْ شُهَدَاءَ إِذْ حَضَرَ يَعْقُوبَ الْمَوْتَ إِذْ قَالَ لِبَنِيهِ مَا تَعْبُدُونَ مِنْ بَعْدِي قَالُوا نَعْبُدُ إِلَهَكَ وَإِلَهَ آبَائِكَ إِبْرَاهِيمَ وَإِسْمَاعِيلَ وَإِسْحَاقَ إِلَهًا وَاحِدًا وَنَحْنُ لَهُ مُسْلِمُونَ ﴿١٣٣﴾ تِلْكَ أُمَّةٌ قَدْ خَلَتْ لَهَا مَا كَسَبَتْ وَلَكُمْ مَا كَسَبْتُمْ وَلَا تُسْأَلُونَ عَمَّا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٣٤﴾

127 預言者よ、イブラーヒームとイスマーイールがカアバの基礎を造っていた時のことを思い起こせ。かれらはカアバの建設を含め、行いのすべてを受け入れてくれるよう、謙虚に祈った。「あなたこそ私たちの祈りを聞いてください、私たちの意図と行いのすべてをご存知の御方。」

128 かれらはアッラーに対し、自分たちが命令に献身的に服従し、かれに対して謙虚となり、そしてかれのほかは何者をも崇拝しないよう、またかれらの子供とその子孫を、かれに献身的で従順な共同体としてくれるよう祈った。かれらはまた、アッラーを崇拝する方法と、かれに命じられたことにおける自分たちの欠点や間違いを許してくれるよう求めた。かれは、許しを求め、かれの被造物に対して慈悲深い者たちに対し、慈悲深き御方である。

129 かれらはアッラーに、イスマーイールの子孫から使徒を選び、アッラーの啓示された章句をかれらに朗誦し、かれらにクルアーンとスンナを教え、アッラーに並べて何者かを崇拝すること、すべての悪からの浄化を求めた。かれの本質は全能であり、その定めと行いにおいて英知に満ちている。

130 自分自身の価値を知らず、屈辱に満足する者を除き、イブラーヒームの教えから背き去り、他の生き方を選ぶ者はいない。アッラーは現世でかれを使徒として、またアッラーの友として選んだ。そして来世でかれは、アッラーが要求したことを果たした、最高位に達した誠実な者の一人となる。

131 アッラーがイブラーヒームを選んだのは、かれの迅速な従順さからである。かれは、忠実かつ献身的な崇拝をし、それを指示通り謙遜して行うようイブラーヒームに命じた。イブラーヒームは主に答え、僕を創造して糧を与え、自らの後見者であるかれに尽くして服従すると述べた。

132 イブラーヒームは、息子たちにこう言うよう助言した。「私は全世界の主に服従する。」その後ヤアクーブも自分の息子たちに同じことを言った。かれらは息子たちに、アッラーがかれらのため、献身的に服従する宗教としてイスラームを選んだこと、そしてかれらが死ぬまでそれを堅持し、内面的にも外面的にもアッラーに誠実に服従することを伝えた。

133 あなたがたはヤアクーブが死の間際、息子たちにかれの死後は何を崇拝するのか尋ねたとき、その場に立ち会ったか。かれらはイブラーヒーム、イスマーイール、イスマークといった父祖に倣い、並ぶ者なき唯一の神アッラーを崇拝し、献身的に服従し、帰依すると答えた。

134 それらの民は、他のもの同様に過ぎ去ったものである。かれらは生活の中で、行いに応じて善悪の応報を得た。あなたがたはその稼いだものを得るだろう。あなたがたが、かれらの行いについて責任を問われることはないし、かれらがあなたがたの行いについて責任を問われることもない。誰でも、他人の不服従について責任を問われることはないが、誰しもが自らの行いに応じた報いを得る。あなたがたは、先人の行為に関心を寄せることで自らの行為に対して注意散漫であってはならない。自分自身の善行以外には、何も利益をもたらすものはないのである。

本諸節の功德:

- アッラーを意識する信仰者は、自身の善行に惑わされることはなく、それがアッラーによって受け入れられるかどうかを心配する。それゆえ信仰者は、アッラーが善行を受け入れてくれるよう頻繁に願うべきである。
- 預言者の父祖イブラーヒームの祈りによる祝福とは、アッラーがかれの祈りを受け入れ、最後の預言者(ムハンマド)をマッカの民から選んだことである。
- イブラーヒームの教えは真の信仰であり、人間にとっての自然な生き方である。自身の自然な性質に反する愚か者だけがそれを拒否する。
- 子供たちへ導きに従うよう指示し、真実を堅持させる約束をすることは効果的である。

وَقَالُوا كُونُوا هُودًا أَوْ نَصْرَى تَهْتَدُوا قُلْ بَلْ مِلَّةَ إِبْرَاهِيمَ حَنِيفًا وَمَا كَانَ مِنَ الْمُشْرِكِينَ ﴿١٣٩﴾ قُولُوا ءَامَنَّا بِاللَّهِ وَمَا أُنزِلَ إِلَيْنَا وَمَا أُنزِلَ إِلَىٰ إِبْرَاهِيمَ وَإِسْمَاعِيلَ وَإِسْحَاقَ وَيَعْقُوبَ وَالْأَسْبَاطِ وَمَا أُوتِيَ مُوسَىٰ وَعِيسَىٰ وَمَا أُوتِيَ النَّبِيُّونَ مِنْ رَبِّهِمْ لَا نُفَرِّقُ بَيْنَ أَحَدٍ مِنْهُمْ وَنَحْنُ لَهُ مُسْلِمُونَ ﴿١٤٠﴾ فَإِنَّ ءَامِنُوا بِمِثْلِ مَا ءَامَنُتُمْ بِهِ فَقَدِ اهْتَدَوْا وَإِن تَوَلَّوْا فَإِنَّمَا هُمْ فِي شِقَاقٍ فَسَيَكْفِيكَهُمُ اللَّهُ وَهُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿١٤١﴾ صِبْغَةَ اللَّهِ وَمَنْ أَحْسَنُ مِنَ اللَّهِ صِبْغَةً وَنَحْنُ لَهُ عَابِدُونَ ﴿١٤٢﴾ قُلْ أَتُحَاجُّونَنِي بِاللَّهِ وَهُوَ رَبُّنَا وَرَبُّكُمْ وَلَنَا أَعْمَلُنَا وَلَكُمْ أَعْمَلُكُمْ وَنَحْنُ لَهُ مُخْلِصُونَ ﴿١٤٣﴾ أَمْ تَقُولُونَ إِنَّ إِبْرَاهِيمَ وَإِسْمَاعِيلَ وَإِسْحَاقَ وَيَعْقُوبَ وَالْأَسْبَاطَ كَانُوا هُودًا أَوْ نَصْرَى قُلْ ءَأَنْتُمْ أَعْلَمُ أَمِ اللَّهُ وَمَنْ أَظْلَمُ مِمَّنْ كَتَمَ شَهَادَةً عِنْدَهُ مِنَ اللَّهِ وَمَا اللَّهُ بِغَفِيلٍ عَمَّا تَعْمَلُونَ ﴿١٤٤﴾ تِلْكَ أُمَّةٌ قَدْ خَلَتْ لَهَا مَا كَسَبَتْ وَلَكُمْ مَا كَسَبْتُمْ وَلَا تُنتَعُونَ عَمَّا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٤٥﴾

ない、と。

139 もしも啓典の民が、かれらの方があなた方よりも歴史が古く、かれらの啓典の方が前に啓示されたため、あなた方よりもアッラー、そしてその教えにおいてより正しい権利を持つと主張し議論を仕掛けたとしても、それはかれらの利益とはならない。アッラーはすべての者の主であり、かれらだけの主ではない。預言者よ、告げよ。あなたにはあなた自身の行いがあり、かれらはその責任を問われることがないこと、そしてかれらにはかれらの行いがあり、あなたはその責任を問われることがないということ。誰であれ、その行いに応じて報いを受ける。そして、あなたは礼拝においてアッラーに誠実であり、命令どおりに行動していること、またアッラー以外には何者をも崇拜しないということを告げるのだ。

140 啓典の民よ、それともイブラーヒーム、イスマーイール、イスハーク、ヤアクブ、そしてヤアクブの子孫の預言者たちが、ユダヤ教徒やキリスト教徒の道を歩んでいたとでも主張するのか？預言者よ、それに対して尋ねよ。より知識があるのはかれらなのか、それともアッラーなのか、と。かの預言者たちがユダヤ教徒やキリスト教徒であると主張したとしても、かれらは律法と福音が啓示される前に死んでいるため、かれらの言うことは偽りである。これは、アッラーと預言者に対する嘘であり、かれらに啓示された真実の隠蔽である。啓典の民の一部が行ったように、アッラーからの明白な証拠を隠蔽することよりも大きな不義はない。アッラーがあなた方の行いを認識しないことはなく、あなた方はその行いに応じた報いを受けるのである。

141 それらは、あなた方よりも過去の共同体であり、かれらは自分たちの行動により、その報いを得た。かれらは自分の行為から報いを得て、あなた方も自らの行為によって報いを得るのだ。あなた方は、かれらの行為について責任を問われることはなく、かれらがあなた方の行為について責任を問われることもない。誰も他人の不服従について責任を負う者はいないし、他人の行為によって恩寵を受ける者もない。人はそれぞれ、自らの行為に応じて報いを受け取るのである。

本諸節の功德:

- 啓典の民が真理に追隨しているという主張は、アッラーが遣わした預言者ムハンマドに啓示したものを信じない限り、かれらを益することはない。
- 宗教とは行為の外見の色染めと呼ばれ、ムスリムはその衣服を染めたように言われる。
- アッラーの主権に対する認知は、すべての被造物にとって自然なことである。被造物は悪魔とその援助者によって、その事実から背かせられる。

138 ユダヤ教徒たちはムスリムに対し、正しく導かれるならユダヤ教徒でなければならぬと言った。またキリスト教徒たちは、正しく導かれるならキリスト教徒でなければならぬと言った。預言者よ、それに答えて言うのだ。あなたは、虚偽の生き方から真理の道へと従ったイブラーヒームの教えに追随しているということ。かれは、アッラーに並べ他者を崇拜することはなかった。

139 信仰者たちよ、これらの根拠なき主張をするユダヤ教徒とキリスト教徒たちに対して言うのだ。あなた方がアッラーとかれの啓示したクルアーンを信じていること、そしてイブラーヒームとその息子イスマーイールとイスハークとヤアクブに対して下された啓示を信じ、そしてヤアクブの子孫の預言者たちへ下されたものを信じている、と言うのだ。また、あなた方はアッラーがムーサーに授けた律法と、イーサーに授けた福音とを信じ、そしてすべての預言者たちに下された啓典に対し、取捨選択したり選りすぐろうとしたりせず、一様に信仰する、と言うのだ。そしてあなた方は謙虚にかれのみに対して服従する、と言うのだ。

140 ユダヤ教徒とキリスト教徒、そして他の不信仰者たちがあなた方と同じように信仰を持てれば、アッラーが満悦する正しい人生の道へと導かれていたろう。しかし、かれらはすべての預言者たち、もしくはその一部を拒否して信仰から離れ、あなた方に合意せず、反対する。預言者よ、悲しんではならない。なぜならアッラーはあなたを危害や悪徳から守り、かれらに勝利させるからだ。アッラーにはかれらの発言がすべて聴こえ、その意図と行動も知り尽くしている。

141 あなた方にとっての自然な生き方であるアッラーの教えを、内面的にも外面的にも堅持せよ。アッラーの道よりも良い道はなく、それは人の天性にかなない、あらゆる点で利益をもたらし、悪と腐敗から守るものである。言うのだ。私たちはアッラーのみを崇拜し、他の何者をも崇拜し